

令和 4 年度 事業報告書

社会福祉法人 大野城市社会福祉協議会

令和 4 年度事業報告

★総 括★

＜事務局長 馬場 徹＞

大野城市社会福祉協議会(以下、「社協」)は、令和4年10月に法人化50周年を迎え、10月8日に職員の企画による50周年記念事業『感謝～つながり よりそう これからも～』をテーマに「社協ふくしの祭典」を開催し、ご来賓の方々をはじめ、多くの市民の皆様がご来場くださいました。

地域活動では、普段から地域の福祉活動に取り組まれている人に「見守り活動アンケート」を行い、地域の福祉活動の現状と課題を、地域と社協と市で共有しました。

広報活動では、社協のことをもっと広く市民に知ってもらうため、YouTube、SNSなどの広報啓発活動に力を入れました。

またコロナ禍の中、市民の皆様と地元企業様のご協力により、食料支援も継続して行っております。

令和4年に第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画は2年目を迎え、市福祉サービス課やすこやか長寿課、生活支援課と連携する重点事業や、コミュニティ運営協議会や福岡県マンション管理士会の協力を頂いて進める重点事業に取り組み、実施しました。令和5年に最終年を迎える本計画の次期計画について、市福祉サービス課と協議し、令和6年度からはこれまで市と社協が一体的に作成してきたものを、一層広角な視点に立ち、市の地域福祉計画と社協の地域福祉活動計画を策定する運びとなりました。

令和4年度はコロナ禍が続く中、50周年という大きな節目を、多くの方々と感謝の思いを共有でき、これから先の10年後、20年後の社協の新たな飛躍に向けて、職員一同邁進してまいります。

重点事業

以下☆マーク…第3期市民活動推進計画

◇総務企画課◇

＜課長 高原 信治＞

＜健全な法人運営＞

- ・新型コロナウイルスによる影響が残るなか、一般寄附及び社協会員会費、赤い羽根共同募金については皆様のご協力により令和3年度の実績を上回ることができました。しかし、介護サービス関連の事業については減収となっていますので、新規利用者増へ向けて取り組んで参ります。
- ・法人化50周年に向け、全職員がひとつとなり、式典や社協ふくしの祭典を成功させることができました。そして、お互い助けられ助ける「向こう三軒両隣」の精神でやさしい地域社会、あたたかい地域社会、すこやかな地域社会を目指していくことを確認することができました。

＜感染対策の徹底＞

- ・センターの出入口3か所に検温計とオートディスペンサーを設置し、感染対策防止に努めました。
- ・福祉団体やボランティア団体、貸会議室利用者などが会議やイベントを安心して開催できるようにワイヤレスアンプを購入し、使用できるマイクを増やし貸出を行ないました。

＜総合福祉センター利活用＞

- ・安心して使用できる施設を目指すため、令和5年の改修工事に向け、定期的に全館を確認するとともに市への報告や協議をおこない、次年度へ向けての準備をおこないました。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年3月より開始された特例貸付の償還が始まることを受け、貸付対象者に配慮した相談室を2部屋増設し環境を整えました。相談室として利用がない時には授乳室としても対応できる仕組みをつくりました。

＜指定寄附の執行＞

- ・新型コロナウイルスの影響により開催を見送っていた東北応援N基金による東北応援ツアーを実施することができました。

- ・個人や企業よりご寄附いただいた食料品等の無料配布をおこなう「ふーちゃんパントリー」を設置し困った人を助ける取り組みをおこないました。また、食料支援をしている区や福祉団体等へ、意向を伺い食料の配付をおこないました。

◇地域課◇

<係長 金丸 龍彦>

◇地 域 課◇

《市民ニーズの調査研究》

東地区の7区を対象に『見守り活動アンケート』を実施し、見守り対象年齢や福祉部の構成人数、見守り訪問活動の頻度など各区の地域福祉活動を見える化しました。7区共通の悩みは人手不足だが30代や40代の部員がいる区もありました。また、地域の人に参加しやすい活動と取組をしている区もあるなど、各区の現状を共有しました。

《広報事業の拡充“社協を知ってもらう”》

- ・各課のお仕事紹介や総合福祉センターまでの行き方、ふくしの祭典のご案内など50周年記念関連動画をYouTubeにアップロードしたり、社協の事業や地域の情報、ボランティア情報などTwitterやLINEを活用して広く周知しました。

- ・ふくしんぼ188号(2022年2月発行)までは、専門的な福祉用語を職員が解説をする『福祉を論じる』というコーナーを設けていましたが、189号(2022年4月発行)から社協を身近に感じてもらえるように、社協は普段どのような仕事をしているのかを紹介する『社協のおしごと図鑑』にリニューアルしました。

【第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画】

☆《身近な地域のイベントやサロン活動のあり方を考える調査研究》

コミュニティ運営協議会、市すこやか長寿課、社協の3者で番茶の会を検討するための会議を4回実施しました。そのなかで令和5年度の番茶の会や令和6年度以降の番茶の会について協議を行い、令和6年度以降については参加者全員で意見を出し合い、『高齢者ひとり暮らし地域交流事業実施方針』を作成しました。

☆《未来へつながるボランティア活動》

結成2年目を迎えたYFH(Young Free Helper)は、毎月定例会を開催しやってみたい活動やメンバー募集について活発な意見交換をしました。今年度は大野北小ランドセルクラブでレクリエーションを実施したり、ふくしの祭典やボランティアのつどいに参加するなど、主体性をもって活動することができました。

☆《働き盛り世代の介護者を支える新たな地域福祉活動の取組み》

地域課と介護サービス課で企画案を作成し、令和5年度に企画を発信できるよう準備を進めています。

☆《マンションと連携した地域づくり》

福岡県マンション管理士会と意見交換を重ね、出前講座ふーちゃんゼミナール2023に福岡県マンション管理士会に講師としてご協力いただく『マンション暮らしのあれこれ』と題したプログラムを作成しました。

◇権利擁護課◇

<課長 馬場 徹>

《生活福祉資金貸付事業》

コロナウイルス感染拡大による特例貸付の申請受付は、令和4年9月で終了となり、これまで貸付を受けた世帯(約1100世帯)への償還(返済)相談事務が開始されました。また特例貸付を受けた方全員を対象に、現在の生活状況等を把握するためのアンケート調査を行い、生活に困窮する世帯に対しては、償還免除等の手続きを行いました。

また生活の困り事に関する法律相談を新たに、毎月金曜日の夜間又は土曜日の午前に開設しました。

☆《日常生活自立支援事業・法人後見事業》

日常生活自立支援事業の市民生活支援員を募集するため、生活支援員養成講座を2回開催し、令和4年度

は6名の新たな生活支援員が増員となりました。

また、市福祉サービス課と市すこやか長寿課と社協3者協働による中核機関では、それぞれの相談窓口での対応状況等の共有と、成年後見制度の利用の促進をはじめとする権利擁護の推進を図るため、毎月1回の定例会議を設けました。

☆《死後事務事業》

日常生活自立支援事業の利用者で生活保護を受給している方で親族がいない方を対象に、令和4年より死後事務事業を開始しました。親族の有無については市の生活支援課に実態調査をお願いし、対象者の把握に努めました。

◇居宅介護支援事業課・居宅介護サービス課◇

＜課長 福島 愛砂＞

《働き盛り世代の介護者支援》

地域課と今後の展開について意見交換行いました。

《地域福祉との連携》

地域課題に対し、ふーちゃんゼミナールなどの中で具体的な対応方法を盛り込むなど分かりやすく、身近な技術を伝えました。

《感染症対策》

一斉お知らせで利用者様へ感染状況をお伝えするだけでなく、理解度などに合わせた説明や助言を行ないました。

《居宅介護支援事業》

ボランティア活動などインフォーマルな社会資源を積極的にケアプランに導入しました。

《居宅介護サービス事業》

知り合いなどを通し人材確保のための努力を行ないました。

ヘルパーの役割を利用者だけでなく関係機関へも伝えました。

各種委員等の就任について

職員氏名	機関名・職名・委員名等	推薦母体		依頼元
合原 佳登理	社会福祉法人野の花学園評議員	大野城市社協		社会福祉法人 野の花学園
〃	大野城市シルバー人材センター役員選考会委員	大野城市社協		公益社団法人 大野城市シルバー人材センター
〃	NPO共働のまち大野城役員選考委員	大野城市社協		NPO法人 共働のまち大野城
〃	一般財団法人あすたむ舎評議員	大野城市社協		(株)ニック
〃	民生委員推薦会委員長	大野城市社協		大野城市
〃	大野城市市制50周年記念事業実行委員会委員	大野城市社協		大野城市
〃	社会福祉法人悠生会評議員	大野城市社協		社会福祉法人 悠生会
〃	コミュニティ構想策定協議会	大野城市社協		大野城市
馬場 徹	大野城まどかびあ事業アドバイザー委員会委員	大野城市社協		公益財団法人 まどかびあ
〃	社会福祉法人慶和会(まどか園)評議員	大野城市社協		社会福祉法人 慶和会
〃	悠生園 入所検討委員 苦情処理委員会第三者委員	大野城市社協		社会福祉法人 悠生会
〃	大野城市民総ぐるみ防災訓練実行委員会委員	大野城市社協		大野城市
〃	南地区コミュニティ運営協議会 拡大幹事会委員	大野城市社協		南地区コミュニティ運営協議会
井上 修	権利擁護センターばあとなあ 福岡 成年後見人		その他 (権利擁護センターばあとなあ福岡)	公益財団法人 福岡県社会福祉士会
金丸 龍彦	北地区地域包括ケアシステム協議会	大野城市社協		北地区コミュニティ運営協議会
山内 友香	もやいネット南	大野城市社協		南地区コミュニティ運営協議会
〃	大野城市空き家対策審議会委員	大野城市社協		大野城市
〃	さわやかテラス大野城地域運営推進会議委員	大野城市社協		さわやかテラス大野城 ((株)ウェルフェアネット)
〃	大野城市子ども・若者育成会議 子育て支援部会委員	大野城市社協		大野城市
橋川 美加	大野城市国民保護協議会委員	大野城市社協		大野城市
〃	大野城市地域包括ケアネットワーク協議会委員	大野城市社協		大野城市
永田 貴大	おおの山城大文字まつり実行委員	大野城市社協		おおの山城大文字まつり委員会
	中央まどかネット	大野城市社協		中央地区コミュニティ運営協議会
〃	東地区地域包括ケアシステム実行委員会委員	大野城市社協		東地区コミュニティ運営協議会
〃	さわやかテラス大野城中央地域運営推進会議委員	大野城市社協		さわやかテラス大野城 ((株)ウェルフェアネット)
〃	ここふるショップ実行委員会委員	大野城市社協		大野城市
益坂 和	福岡地区地域福祉活動職員連絡会副会長	大野城市社協		福岡地区地域福祉活動職員連絡会
〃	福岡県地域福祉活動職員連絡会幹事	大野城市社協		福岡県地域福祉活動職員連絡会
〃	大野城市道徳教育推進協議会委員	大野城市社協		大野城市教育委員会教育支援課
福島 愛砂	大野城市要保護児童対策地域協議会代表者会議委員	大野城市社協		大野城市
松田 千草	大野城市健康食育推進委員	大野城市社協		大野城市

令和4年度 事業報告書



目 次

令和4年度職員体制	5
執行機関 理事会	6
議決機関 評議員会	6
監査	7
評議員選任・解任委員会	7
専門委員会	7

総務企画課

1. 理事会・評議員会等	8
2. 専門委員会	9
3. 情報公開	9
4. 寄附受入事業	10

地域課

5. 社協会員推進事業	12
6. 大野城市地域福祉活動における 市民活動推進計画	12
7. 地域福祉推進事業	13
8. 社会福祉法人ネットワークの構築	17
9. 大野城市生活支援体制整備事業	18
10. 広報関係	23
11. リフトカー運行事業	24
12. 福祉バス運行事業	24
13. 福祉用具貸出事業	24
14. 福祉リサイクル事業	25
15. ハンディキャブ貸出事業	25
16. 高齢者福祉対策事業	25
17. 身体障がい者福祉対策事業	26
18. 知的障がい者福祉対策事業	26
19. 子育て支援事業	27

20. 児童青少年福祉対策事業	28
21. 学校における福祉教育	28
22. 母子父子福祉対策事業	30
23. 在宅介護者支援事業	31
24. ふくしフェスティバル 2022	31
25. 福祉食事サービス	32
26. ボランティア活動推進	32
27. 被災地支援活動	37

権利擁護課

28. 総合相談事業	38
29. 生活福祉資金貸付事業	39
30. 特例貸付相談支援事業	40
31. 日常生活自立支援事業	40
32. 法人後見事業	42
33. ライフレスキュー事業	42
34. 死後事務事業	42

介護サービス

35. 介護サービス事業	43
--------------	----

その他

36. 社会福祉援助技術現場実習受入	46
37. 職員の資格（取得）状況	47
38. 職員内部研修	48
39. 法人化 50 周年事業	49

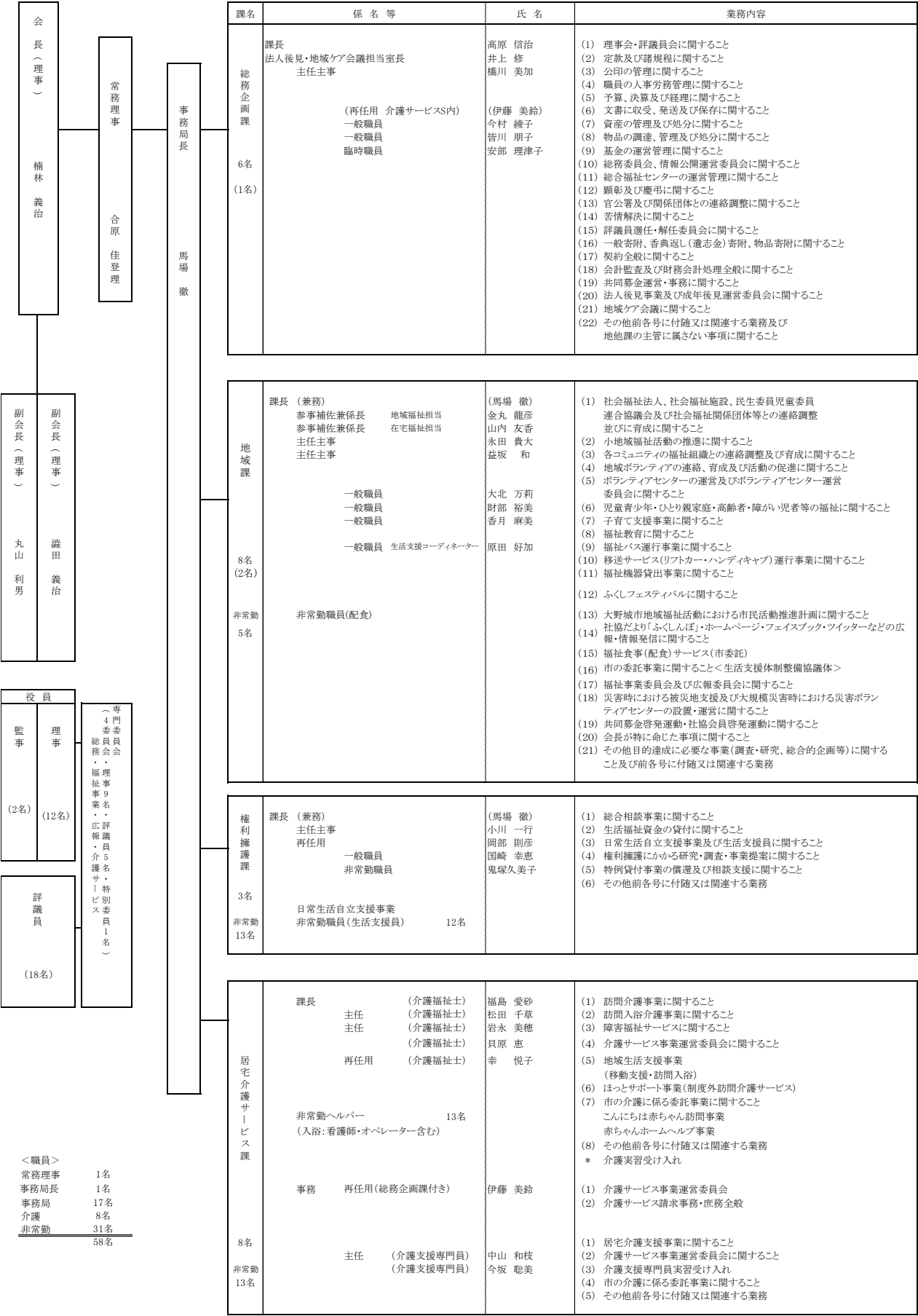
参考資料

社会福祉人 福岡県共同募金会 大野城市支会	50
--------------------------	----

【2022 年度 事業方針】	53
----------------	----

社会福祉法人大野城市社会福祉協議会 組織図

()は兼務



令和 4 年度職員体制（令和 5 年 3 月 31 日現在）

事務局長 (地域課長、権利擁護課長兼務)	1 名	
総務企画課	7 名	(内、再任用職員 1 名、一般職 2 名 臨時職員 1 名)
地域課	13 名	(内、一般職 4 名、非常勤職員 5 名)
権利擁護課	16 名	(内、再任用職員 1 名、一般職 1 名、 非常勤職員 13 名)
居宅介護サービス課	21 名	(内、非常勤 13 名)
総数	58 名	

プロジェクトチーム

課を横断したチームを作り業務を遂行するとともに、職員相互の連携協力により、組織一丸となり、事業・活動を展開。

ボランティアエントリーシステム
第 3 期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画(市協働)
ふくしフェスティバル(市協働)
権利擁護事業における事業開発の研究:死後事務等
学校における福祉教育
法人化 50 周年記念プロジェクトチーム

大野城市社会福祉協議会組織構成

執行機関 理事会名簿(12 名)

(敬称略)

推薦母体	氏 名
筑紫農業協同組合	楠 林 義 治
大野城市区長会	丸 山 利 男
大野城市民生委員児童委員連合協議会	澁 田 義 治
大野城市シニアクラブ連合会	田 中 泰 彦
大野城市商工会	花 田 稔 之
大野城市小中学校校長会	陶 山 嘉 一
大野城市身体障がい者福祉協会	石 津 美 和 子
大野城市福祉委員会	藤 不 二 乃
社会福祉法人 悠生会	佐 野 裕
大野城市ボランティア連絡協議会	原 妙 子
大野城市食生活改善推進会	高 田 恵 子
識見を有する者	合 原 佳 登 理

議決機関 評議員会名簿(18 名)

(敬称略)

推薦母体	氏 名
大野城市区長会	藤 田 實
大野城市民生委員児童委員連合協議会	妹 尾 洋 子
大野城市シニアクラブ連合会	鬼 塚 春 光
大野城市商工会	原 一 郎
大野城市身体障がい者福祉協会	黒 木 與 士 朗
大野城市福祉委員会	中 野 久 美 子
大野城市ボランティア連絡協議会	森 敏 江
大野城市食生活改善推進会	川 端 宏 子
大野城市役所	石 川 茂
大野城市議会	福 澤 信 光
筑紫保護区保護司会大野城支部	高 木 秀 和
春日警察署少年補導員連絡会	角 光 枝
大野城市子ども会育成会連絡協議会	橋 口 清 美
大野城市手をつなぐ育成会	赤 井 田 八 千 代
大野城市教育委員会	清 尾 昌 利
大野城市保育所連盟	高 橋 香 奈
社会福祉法人 あけぼの福祉会	野 田 江 美
大野城市母子寡婦福祉会	田 口 富 恵

監査機関(2名)

(敬称略)

推薦母体	氏 名
大野城市商工会	原 田 康 男
識見を有する者	佐 藤 義 廣

評議員選任・解任委員会(5名)

区 分	氏 名
外部委員	藤 田 博 久
外部委員	間 か お る
外部委員	金 子 重 紀
社協監事	佐 藤 義 廣
社協事務局職員	高 原 信 治

専門委員会

委員会名	区 分	氏 名
総務委員会	理 事	楠 林 義 治
	評 議 員	赤 井 田 八 千 代
	評 議 員	石 川 茂
福祉事業委員会	理 事	藤 不 二 乃
	理 事	佐 野 裕
	理 事	陶 山 嘉 一
	評 議 員	森 敏 江
	特別委員	藤 田 博 久
広報委員会	理 事	花 田 稔 之
	評 議 員	川 端 宏 子
	評 議 員	中 野 久 美 子
	評 議 員	野 田 江 美
介護サービス事業運営委員会	理 事	田 中 泰 彦
	理 事	原 妙 子
	評 議 員	妹 尾 洋 子

<総務企画課>

1. 理事会・評議員会等

会計(サービス区分)

理事・監事の任期は、令和3年6月25日から令和5年定時評議員会終結時まで。

法人運営費

評議員の任期は、令和3年6月25日から令和7年定時評議員会終結時まで。

1 理事会開催状況 (理事総数 13名)

開催年月日			議 題		出席者
令和4年	6月10日	第1回	第1号議案から第6号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会副会長の選定について 他	12名
	9月1日	第2回	第7号議案	生活困窮状態が続いている生活福祉資金特例貸付の借受人世帯への相談支援(債権管理事務費)の業務委託契約について	13名
	12月27日	第3回	第8号議案から第10号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会処務規程の改正について 他	12名
令和5年	3月6日	第4回	第11号議案から第14号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和5年度事業計画(案)について 他	10名

正副会長会の開催 打合せ会議開催
(令和4年11月28日、令和5年3月1日)
理事会・評議員会の議案の事前審議

2 監事会の開催状況

開催年月日		監 査 内 容	出席者
令和4年	5月12日	令和3年度 業務・会計監査	2名
	11月17日	令和4年度 業務・会計中間監査	2名

3 評議員会開催状況 (評議員総数 18名)

開催年月日			議 題		出席者
令和4年	5月27日	第1回	第1号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会理事の選任について	18名

	6月28日	第2回	第2号議案 から 第4号議案	令和3年度社会福祉法人大野城市社会福祉協議会事業報告書について 他	15名
	9月16日	第3回	第5号議案	生活困窮状態が続いている生活福祉資金特例貸付の借受人世帯への相談支援（債権管理事務費）の業務委託契約について	18名
令和5年	3月23日	第4回	第6号議案 第7号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和5年度事業計画(案)について 他	15名

4 評議員選任・解任委員会開催状況（委員総数 5名）

開催年月日			議 題	出席者
令和4年	6月21日	第1回	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会評議員の選任について	5名

2. 専門委員会

法人運営費

1 専門委員会開催状況

委員会名	開催年月日	議 題
総務委員会	令和5年2月22日	令和5年度事務局体制について 他
広報委員会	令和4年8月3日	広報委員会について 社協だより190号 2022.9.15について
	8月18日	社協だより190号 2022.9.15について
	10月3日	社協だより191号 2022.11.15について
	10月19日	社協だより191号 2022.11.15について
	令和5年1月5日	社協だより192号 2023.2.15について
	1月18日	社協だより192号 2023.2.15について
	3月9日	社協だより193号 2023.4.15について
	3月20日	社協だより193号 2023.4.15について
福祉事業委員会	令和5年3月14日	大野城市社会福祉協議会の子育て支援について

3. 情報公表

法人運営費

市民の福祉活動への理解と信頼及び積極的な参加を促すことを目的に、社協だよりやホームページ、財務諸表等電子開示システム等にて情報を公開していく。

4. 寄附受入事業

法人運営費

寄附金は在宅高齢者・障がい者の方への支援事業やボランティアセンター運営事業など社会福祉協議会が行なう民間社会福祉事業に活用されている。

※寄附種別

一般寄附 …… 個人、団体の善意による寄附
 香典返し寄附 …… 故人並びにご遺族のご遺志による寄附
 指定寄附 …… 指定した事業に充てられる寄附
 物品寄附 …… 車いす、紙オムツなど物品による寄附

令和4年度実績

◇寄附受入事業実績

寄附種別	件数	寄附内容
一般寄附	60件	3,726,262円
香典返し寄附	6件	142,500円
指定寄附	2件	625,000円
(合計)	68件	4,493,762円
物品寄附	126件	・福祉用具 車いす1台、拡大読書器2台、杖2本 シルバーカー1台、シャワーチェア1台、吸引器1個 介護用シーツ204枚、浴槽手すり1台 介護食品1件、紙おむつ・パッド [※] 13件 ストーマ補装具1件 ・感染予防 マスク1,456枚、アルコール消毒液1件、手袋1箱 ・その他 食料品29件、生活雑貨22件、衣類25件 ジュニアシート1台、チャイルドシート1台、花器1件 寝具4件、家電等2件、文具4件、食器6件 絵本等2件、生理用品3件、楽器1件 家具1件、ペットボトルキャップ・プルタブ8件 囲碁一式2件、木製おもちゃ1件 新生児用オムツ1件、カレンダー1件 カレンダー1件、まどかぴあシネマランド [※] 利用券9枚 切手・ハガキ等は換金し、一般寄附へ

一税控除の適応について一く社会福祉協議会へのご寄附は特定寄附金です。寄附領収証を提示してください。＞

個人寄附者

寄附金控除額 = 1月～12月まで 特定寄付金 } どちらか 総所得の40%相当額 } 少ない額 - 2,000円

企業寄附者 全額損金算入限度額 = 1月～12月まで (資本金の0.25%) + (所得の金額の5%) ÷ 2

★但し、税制改正により変更になることがあります。

4-2. フードパントリー

市内の企業等や個人から寄贈いただいた食料を活用し、食料支援、『ふーちゃんパントリー』を実施した。第4弾については、厚生労働省補助事業子どもの食生活に係る緊急助成を受け、簡易的に準備でき、日持ちする即席麺や缶詰レトルト食品を購入し、支援をおこなった。



4月8日から5月8日まで実施

9月20日から9月30日まで実施



12月23日から1月16日まで実施

3月27日から実施

<地域課>

5. 社協会員推進事業

法人運営費

住民に賛同を助け、地域の福祉活動の充実を目指し、行政・区長・隣組長さんなど住民の協力のもと啓発・推進を進める事業。27区の行政区に地域福祉活動助成金として社協会員会費を共同募金配分金とあわせて交付。区で行われる隣組長会に協力をお願いに伺っている。令和4年度は会費の種類の見直しを行い、チラシの訴求性を上げるための作り変えを行った。



令和4年度合計		
件数	口数	金額
12,405 件	23,194 口	11,585,360 円
前年比	109%	101%

6. 大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画

市と社協が一体的に策定した本計画は第3期目となる。今期は更なる地域福祉の推進を図るために、「多彩な人材が地域で活躍 支え手と受け手を越えて～ともに生きる地域社会の構築～」を基本理念に掲げ、4つの基本目標のもと、第2期計画から継続する3つの事業と7つの新規事業で構成された10の重点事業に取り組んでいく。

◇大野城市やすらぎのまち市民協議会…4回開催

開催年月日			議 題	出席者
令和4年	6月27日	第1回	❖これまでの流れと今年度のスケジュールについて ❖重点事業説明	10名
	9月22日	第2回	❖重点事業について、課題や改善点、課題解消のための方法等委員から意見をいただく	8名
	12月19日	第3回	❖重点事業説明	9名
令和5年	3月20日	第4回	❖重点事業説明 ❖令和5年度以降について	8名

1 第3期計画における重点事業

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| ① 働き盛り世代の介護者を支える新たな地域福祉活動の取組 | ⑥ マンションと連携した地域づくり |
| ② 学校と地域をつなぐ福祉教育共同推進事業 | ⑦ 地域福祉の更なる充実を目指した地域支援者同士の連携強化 |
| ③ 福祉の理解を深めるためのふくしフェスティバルの実施 | ⑧ 災害時の助け合いを実現するための見守り体制の構築 |
| ④ 世代を超えて未来へつながるボランティア活動の促進 | ⑨ 権利擁護事業の研修会の実施と担い手の拡充 |
| ⑤ 身近な地域のイベントやサロン活動のあり方を考える調査研究 | ⑩ 人生を自分らしく生き抜くためのサポート |

7. 地域福祉推進事業

令和4年度実績

法人運営費

共募／福祉育成・援助活動

1 福祉委員会活動事業(第20期)

各区に1名の福祉委員を委嘱し、偶数月に定例会議を実施している。

定例会の開催

期 日	内 容
令和4年4月13日(水)	✳委嘱状交付式 ✳令和4年度福祉委員会年間計画について ✳福祉委員ってなに？ 他
令和4年6月 8日(水)	✳委嘱状交付式 ✳事例検討・グループワーク 他
令和4年8月10日(水)	✳出前講座「災害時避難行動要支援者について知ろう」 他
令和4年10月12日(水)	✳そこまで言って(福祉)委員会 各地区の活動状況の共有 ～うちんこはこげんことしよーばい！～ 他
令和4年12月14日(水)	✳そこまで言って(福祉)委員会 各区の福祉活動におけるお悩み相談 ～あんたん区ではどげんしよーと？～ 他
令和5年2月8日(水)	✳出前講座「疑似体験をとおして知ろう！ 知的障害や発達障害のこと」 他

2 福祉育成援助活動

27区の行政区に地域福祉活動助成金として共同募金配分金を交付。

3 地域ケア会議

目 的：高齢者の状況を中心に市(基幹型地域包括支援センター)、地域、民生委員、福祉委員、各地区地域包括支援センター、社会福祉協議会がさまざまな情報を共有し、地域での見守り活動や支援活動を推進することを目的に開催され、社協からも構成員として出席している。

社協から伝える情報を会議参加者と共有するために、社協のサービス利用者情報一覧を会議時に配布し、会議参加者での情報共有を行った。

4 各区の地域福祉推進委員会の開催状況

各地域で定例的に開催されている地域福祉推進委員会(福祉部会)の会議等に、社協職員はコミュニティワーカーとして各地域の福祉活動を支援している。

会議の進め方は地域の主体性に委ねるところが多いが、ほとんどの地域で社会福祉協議会からの情報提供の時間が用意され、福祉委員からも推進委員へ社協の状況を伝える区が増えた。

「新しい生活様式」での福祉活動について話し合われることが増えた。

5 大野城市コミュニティ福祉部会連絡協議会の開催状況

【偶数月第1月曜日開催】

各コミュニティ福祉部会間の連携強化と情報交換を目的に設置された、本協議会の事務局として地域福祉活動の活性化を図ってきた。現在、コミュニティ福祉部の事務局はコミュニティ運営協議会が担われていることや、第2層協議体が各コミュニティに設置され、これまでコミュニティ福祉部会の部会長、副部会長が意見を出して頂いていた地域課題や社会資源の整理、開拓などは、第2層協議体で行われていることから、コミュニティ福祉部会長、副部会長と、協議を行った結果、令和4年12月をもって、この協議会が終了となった。

12月以降、本会では、引続き地域担当職員が各コミュニティ福祉部会で、必要な情報の提供などを行い、地域福祉活動を推進している。

◇協議会の開催

期 日	内 容
令和4年4月4日(月)	○社会福祉協議会事務局体制と令和4年度事業計画について ○コミュニティ福祉部会連絡協議会説明資料について
令和4年6月6日(月)	○社協事業計画・運営要綱説明・役員選出 ○各コミュニティ福祉部年間計画等 ○今後のコミュニティ福祉部会連絡協議会開催について
令和4年8月1日(月)	○「番茶の会」アンケート集計結果について ○今後のコミュニティ福祉部会連絡協議会について ○各コミュニティ福祉部会の活動について
令和4年12月5日(月)	○「番茶の会」検討会議について ○今後のコミュニティ福祉部会連絡協議会について

◇各地区コミュニティ福祉部会の開催状況

各コミュニティで定例的に開催される福祉部会の会議に、社協職員はコミュニティワーカーとして各コミュニティの地域福祉活動を支援している。

各地区福祉部会	定例会開催回数	主な活動
南コミュニティ福祉部会	14 回	・定例会開催 ・第 21 回南地区コミュニティ福祉部交流の集い『地域が今よりもっと元気になるために』/講師:筑紫女学園大学 山崎安則 教授) ・いきいき健康教室『笑いヨガ』/講師:野田たつ枝氏
中央地区コミュニティ運営協議会福祉部会	6 回	・令和4年度事業計画等について ・「福祉推進委員の集いについて ・「子育て支援親子教室について」 ・「番茶の会」事業について ・部員研修(行き先:西南学院大学子どもプラザ等)
東地区コミュニティ運営協議会専門部会 福祉部	7 回	・令和4年度各区福祉部活動計画発表 ・ふーちゃんゼミナール「拠点づくり、買い物支援」 ・ふーちゃんゼミナール「グループ LINE のおさらい」 ・市出前講座「災害時避難行動要支援者について知ろう」 ・ふーちゃんゼミナール「オンライン研修 Zoom を学ぼう」 ・出前講座「高齢者の人権について」
北地区コミュニティ福祉部会	6 回	✿奇数月第2水曜日に定例会開催 ✿7月13日北地区福祉研修会『児童福祉に関する研修会』講師:こども健康課 ✿MADOKA レクスポ祭 ✿番茶の会の見直しについて協議

6 民生委員児童委員連合協議会活動との協働

- ◇大野城市民生委員・児童委員連合協議会専門部会の研修において「ふーちゃんゼミナール」を活用して頂き、制度や事業について知識を深める時間を共有することができた。
- ◇地域ケア会議などで見守りが必要な方々の情報の共有・連携をしている。

- ◇民生委員児童委員連合協議会は、民生委員法及び児童福祉法に基づき要援護者の見守り等、各区の福祉委員とともに地域福祉のキーパーソンとして活動がなされている。
- 社会福祉協議会の心配ごと相談(無料法律相談)・生活福祉資金貸付・学校における福祉教育などを協働しておこなっている。

7 ふーちゃんゼミナール

令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルスの影響で、活動を自粛した団体が多かったためふーちゃんゼミナールの利用回数が非常に少なかった。しかし、令和4年度は感染拡大を防止しながら地域の福祉活動を再開させた団体が多く、ふーちゃんゼミナールの利用回数はコロナ禍前の令和元年度の利用回数を上回る結果になった。

- ◇ ふーちゃんゼミナール開催状況

開催日	内容	受講団体名	参加者数	担当職員・協力団体
4月19日(火)	向こう三軒両隣ってなに？ ワンポイント介護術	平野台区福祉部	18名	福島 山内 大北
5月25日(水)	生活福祉資金制度について	大野城市民生委員児童委員連 合協議会生活福祉部会	27名	小川
6月16日(木)	障がいがある方への支援について	大野城市スポーツ協会	30名	福島
6月17日(金)	アイマスク体験&車いす体験	牛頸区地域福祉推進委員会	22名	山内 益坂 大北
7月7日(木)	認知症の方への声かけレッスン	中区福祉部	21名	福島 貝原
7月15日(金)	認知症の方への声かけレッスン	乙金東福祉部	12名	中山
7月24日(日)	子どもの夢をかなえるために	大野城市母子寡婦福祉会	10名	井上
8月3日(水)	朗読会	平野台区福祉部	20名	文鳥
9月29日(木)	騙されないぞ悪質商法	公明党党员会	70名	生活安全課 山内
10月24日(月)	認知症の方に対する声かけレッスン	大野城市民生委員児童委員連 合協議会 高齢者・障がい者福祉部会	24名	福島
12月7日(水)	買い物支援 移送販売 FUN のデモ開催	下大利愛のネットワーク	14名	永田 原田
1月17日(火)	コミュニケーションマージャンの遊び方	若草区推進委員会	20名	山内 香月
2月14日(火)	コミュニケーションマージャンの遊び方	下筒井区福祉推進委員会	20名	香月 金丸
2月18日(土)	ここが知りたい！介護保険	大野城市ボランティア連絡協議 会	24名	中山 益坂
2月24日(金)	騙されないぞ悪質商法	牛頸公民館	60名	生活安全課 山内 原田
2月24日(金)	向こう三軒両隣ってなに？	栄町福祉推進会	8名	金丸
3月4日(土)	コミュニケーションマージャンの遊び方	障がい者就業・生活支援センタ ーちくし	18名	金丸 山内
3月15日(水)	コミュニケーションマージャンの遊び方	下筒井食改善	16名	香月 金丸

18回 参加人数延べ 434 名

8 法外援護対策

大雨や台風接近時、業者から組布団を借入し、公民館に避難者の受け入れ状況を確認し、布団の搬入を行った。

令和4年度実績

- ◆令和4年台風第11号
13公民館に対して61組の布団支援
- ◆令和4年台風第14号
14公民館に対して52組の布団支援

9 コミュニケーションマージャン貸出状況

各区で行われているミニデイや、各団体のレクリエーション等で、仲間づくりや特に男性の参加者をもっと増やすことを目的に、コミュニケーションマージャン(2セット)を貸出している。

貸出地区・団体	貸出回数
牛頸区福祉推進委員会	1回

コミュニケーションマージャン貸出状況・・・1件(前年4件)

10 (仮称) 認知症地域見守り訓練

大がかりな声かけ訓練の実施はなかったが、ふーちゃんゼミナールで認知症をテーマにした講座は複数回利用があり、依然として認知症に対する市民の関心は高い状況にある。今後も認知症について正しく理解してもらえるよう啓発を行っていく。

11 区長と社協との懇談会

わがまち大野城市の地域共生社会をめざして伴に地域福祉を推進することを目的に、区長と社協との懇談会をコミュニティごとに開催した。令和4年度は下記の内容で意見交換を行った。

【開催日】南コミ7/21・中央コミ7/6・東コミ7/4・北コミ7/21

【意見交換】①地域ケア会議について ◆社協が配布しているペーパー、いかがですか？

◆報告書をお渡ししていますが、いかがですか？

②福祉委員会について ◆福祉委員、どのように人選していますか？

12 大野城市民総ぐるみ防災訓練

11月26日(土)に市内小中学校、各公民館、各コミュニティセンターで開催された。東コミュニティセンターでは、ペット同行避難訓練も併せて実施され、社協から職員が視察で参加した。

8. 社会福祉法人のネットワークの構築

法人運営費

社会福祉法人福祉施設は、それぞれに専門性を有しており、それをどう地域へ活かすかなど複数の法人による情報交換と法人同士の「顔が見える関係」をつくるため、平成30年度に設立された社会福祉法人連絡会では、分野が違う社会福祉法人相互の連携・協働の取組を進めている。

9. 大野城市生活支援体制整備事業（市受託事業）

生活支援体制整備事業

1 大野城市生活支援体制整備第1層協議体（もやいネット大野城）の開催

◆もやいネット大野城（市全域 第1層協議体）

開催回数:3回

令和4年度は、第3層協議体のイメージの共有とあり方と今後の方向性について議論をした。また、高齢者に役に立つ情報冊子“暮らしのもやい帳第4版”の発刊に向けて、第2層協議体メンバーのアンケートを基に様式や地区版発刊について協議をし発刊が完了した。

委員:14名

学識経験者(1名)、区長(1名)、民生委員(1名)、福祉委員(1名)、介護保険事業者(1名)、シニアクラブ(1名)、社会福祉法人/施設(1名)、ボランティア連絡協議会(1名)、シルバー人材センター(1名)、医療関係者(1名)、企業(1名)、基幹型地域包括支援センター(2名)、北地区地域包括支援センター(1名)

開催日	議 題
第1回 令和4年 6月30日(木)	○委嘱状交付 ○報告事項(前回の振り返り、市内の医療機関・介護事業所の件数について) ○協議事項 ・第2層協議体の状況(地区 SC) ・暮らしのもやい帳・第4版(案)について ・第3層イメージの共有とあり方について(第4回)  ▲共有資料「第3層協議体のイメージ図」について
第2回 令和4年10月14日(火)	○報告事項(振り返り) ○協議事項 ・第2層協議体の状況(地区 SC) ・暮らしのもやい帳 第4版(2校) の中間報告 ・『第3層イメージ』の第2層への説明の経過報告 ・『第3層イメージ』の今後について
第3回 令和5年1月19日(木)	○委嘱状交付式 ○報告事項 前回ふり振り返り、暮らしのもやい帳・第4版について ○協議事項 ・第2層協議体の状況(地区 SC) ○勉強会『地域包括ケアシステムの強化・深化～地域共生社会～』

2 第2層協議体の状況

◆もやいネット南(南地区第2層協議体)

開催回数:4回

令和4年度は、新区長が2名就任し、南ヶ丘2区の区長が、もやいネット南の会長へと就任した。協議内容については、南地区運行のふれあい号の活用の仕方についてと、令和5年度の詐欺被害防止啓発カレンダーについて協議をした。また、社協から第3層協議体のイメージ案について説明をし、第3層協議体設置に向けた各区の取り組みや進捗を報告し協議をした。

委員:24名

南コミ運営協議会会長、区長(福祉部部長・民生委員(各区より1名)、NPO事業部、シニアクラブ会長、南コミ運営協議会事務局長、総務・南地区包括(2名)、基幹型地域包括支援センター・社協(2名)

開催日	議 題
第1回 令和4年 7月15日(金)	・3課題提案に関する進捗報告(すこやか長寿課担当課から説明) ・啓発資料「第2層協議体の目的と役割」について ・令和5年度の詐欺被害防止チラシについて ・各区の地域課題について ・ふれあい号の活用の仕方について
第2回 令和4年9月28日(水)	・ふれあい号の利活用について ・令和5年度の詐欺被害防止チラシ案について ・各区の地域課題について ・第3層イメージについて説明(社協)後、協議
第3回 令和4年11月28日(水)	○協議事項 ・各区の地域課題について ・令和5年度詐欺被害防止啓発カレンダーについて 『第3層協議体イメージ』説明に関する各2層協議体で寄せられた意見まとめ について報告後、協議
第4回 令和5年 2月27日(月)	○報告事項 ・3課題提案に関する進捗報告(すこやか長寿課) ・次年度のもやいネット南の開催について ○協議事項 ・各区の地域課題について ・高齢者移動支援について(ふれあい号待合イスなど) ・第3層協議体について



▲令和5年度の詐欺被害防止啓発カレンダー(A4両面)

◆中央まどかネット(中央地区第2層協議体)

開催回数:4回

中央地区コミュニティまちづくり計画のまどかプラン、(1)寄り合える場づくり、(2)気軽に相談したり、安心して生活できる地域づくり、(3)関係団体・機関等に働きかけていくことを基に研修や協議を重ねた。

委員:21名

中央コミ運営協議会会長・各区長,コミ福祉部会長,コミ福祉部副会長,コミ福祉部,各区の福祉推進委員会,民児協,中央コミ運営協議会事務局(2名),地域包括支援センター(SC),中央地区地域包括支援センター(SC),社協

開催日	議 題
第1回 令和4年 5月27日(木)	○報告事項 ・令和3年度のふり返り ○協議事項 ・令和4年度の地域活動の内容について ・「地域共生社会への第一歩」振り返りと研修について
第2回 令和4年 8月24日(水)	○協議事項 ・まどかプラン実現に向けて、地区SCが①～③を提案 ①屋外での集いの場について ②使ってバンク制度や介護保険制度をもっと身近に ③高齢者版「こども110番」について ・第3層イメージについて説明後、協議
第3回 令和4年11月24日(水)	○報告事項 ・前回のふり返り ・「地域共生社会への第一歩」研修について ・地域住民主体の活動(大池区・おたすけマン)について ○協議事項 ・次回の協議内容について ・第3層協議体について
第4回 令和5年 2月16日(木)	○報告事項 ・前回のふり返り ○協議事項 ・新型コロナ5類移行に伴う自宅訪問について ・今後の動きや予定、開催に向けた工夫について ・暮らしのそよ風帳(第4版)についての感想 ・第3層協議体について

◆福祉包括ケアシステム実行委員会（東地区 第2層協議体）

開催回数:3回

6月の区長役員会で“ケア会議”についてすこやか長寿課から「ケア会議勉強会」を行い、ケア会議設置要綱の説明を受けて基本事項を確認後、福祉包括ケアシステム実行委員会第1回目の開催となった。令和4年度は、主に高齢者を対象にした見守り活動の取り組みについて協議した。

委員:30名

令和4年度より、各区から区長、民生委員と福祉部長が出席

東コミ運営協議会会長,委員長,副委員長,区長,民生委員(4名),福祉部長(3名),東区行政センター(2名),NPO(2名),東コミ運営協議会事務局,事務局(3名),東地区包括,すこやか長寿課(2名),地域包括支援センター(SC),社協

◆福祉包括ケアシステム実行委員会（東地区 第2層協議体）

開催日	議 題
第1回 令和4年 6月16日(木)	○報告事項 ・令和3年度の振り返り ・出席者の紹介 ・令和5年度の実行委員会の進め方 ○協議事項 ・見守り活動の取り組みについて ・各区で開催する“ケア会議”について
第2回 令和4年9月29日(木)	○報告事項 ・ケア会議の協議について実行委員会では収束を決定 ○協議事項 ・新たな見守り活動の取り組みについて ・認知症 SOS 支援ネットについて(行方不明者の搜索について)
第3回 令和5年1月30日(月)	○協議事項 ・高齢者を対象にした行方不明者の搜索について ・新たな見守り活動の取り組みについて ・行方不明者の搜索訓練について

◆北地区地域包括ケアシステム協議会（北地区第2層協議体）

開催回数:7回

令和4年度は、主に認知症対策と各区の情報共有等を行い、上半期は高齢者向けの行事や見守り体制について意見交換を行い、意見交換での課題を下半期で協議。また、認知症のミニ講座で認知症に対する知識を深め、1月に認知症をテーマに研修会を実施した。

委員:22名

北コミ運営協議会会長,北コミ運営協議会副会長,事務局長,コミ福祉部(部会長,副部会長),コミ福祉部会(各区福祉委員,各区民生委員・児童委員代表),北地区民生委員児童委員協議会会長,行政センター係長,北地区地域包括支援センター(SC),地域包括支援センター(SC),社協

開催日	議 題
第1回 令和4年 5月11日(水)	○自己紹介 ○報告事項 ・令和3年度の振り返り ○協議事項 ・令和4年度事業計画案について ・どげんですか〜の活用方法について
第2回 令和4年7月13日(水)	○勉強会 ・認知症ミニ講座 ○協議事項 ・意見交換のテーマ:高齢者向けの行事について意見交換
第3回 令和4年9月14日(水)	○勉強会 ・認知症ミニ講座 ○協議事項 ・意見交換のテーマ:高齢者への見守り・声かけ活動について (事前アンケート結果について、各区の情報交換) ・認知症に関する今後の日程について ・第3層協議体に関するこれまでの経緯について社協説明後、各地区から進捗を報告、協議

第4回 令和4年11月9日(水)	○報告事項 ・前回の振り返り ○協議事項 ・令和4年度、第2回・第3回の意見交換の共通課題、検討課題について
第5回 令和5年1月11日(水)	○報告事項 ・北地区福祉推進委員合同研修会(認知症研修会)について ・北コミ通信について(北地区地域包括ケアシステム協議会について)
研修会 令和5年1月22日(水)	・北地区福祉推進委員合同研修会について (1)大野城市の認知症の取組 (2)研修会 テーマ:認知症と共に生きるまちづくり ～接し方や対応方法～
第6回 令和5年3月8日(水)	○報告事項 ・令和4年度と研修会のふり振り返り ・次年度計画(案)検討

③ 生活支援コーディネーター連絡会の開催

地域の社会資源調査及び社会資源の整理を行い、第2層協議体の進捗情報共有や、社会資源の情報共有や各コミュニティの福祉活動に関する情報交換を行っている。〈生活支援コーディネーター → 通称:「SC」〉
開催回数: 12回(原則、毎月第3水曜日開催)

出席者: 基幹型地域包括支援センターSC, 4地区地域包括支援センターSC, 社協SC, 基幹包括担当者, 社協担当者

④ 社会資源冊子「大野城市暮らしのもやい帳(第4版)」の発行

大野城市が掲げる「住み慣れた地域で支えあい、安心して暮らせる協働のまちづくり」のため、生活支援体制整備事業の一環として、高齢者の生活向上・生きがい創造・介護予防に役に立つ情報をまとめた小冊子、「大野城市暮らしのもやい帳」を令和4年12月に第4版を発刊した。

令和4年度の「大野城市暮らしのもやい帳(第4版)」については、初のコミュニティごとの交流の場・集いの情報誌、地区版(南地区版、中央地区版、東地区版、北地区版)と、市全体の情報を含めた市全域版5冊の小冊子を発刊した。

令和4年度の発刊部数は地区版と市全域版を合わせた3千部。配布については、民生委員や福祉委員、各地区の第2層協議体の委員、各コミュニティ、公民館、シニアクラブ、ケアマネージャー等の関係機関に配布しており、市役所のホームページにも掲載している。



大野城市
ホームページ掲載
大野城市暮らしのもやい帳
(第4版)

大野城市暮らしのもやい帳(第4版)

10. 広報関係

共募／福祉育
成・援助活動

市内を中心とした幅広い福祉情報を掲載した「社協だより(ふくしんぼ)」を年4回発行。市民はもとより、事業所からも「ふくしんぼを見ました」との声を多数いただき、より身近なものとなっている。
紙面については広報委員の意見を参考にするとともに、令和4年より、課を横断し職員での検討する場をつくり更に多くの市民に親しんでもらえる社協だよりを目指している。

令和4年度実績

1 「社協だより」の発行

主 旨 : 広く地域の福祉情報を収集発信し、読みやすく、親しみやすい紙面づくりに努めている。

発 行 号 : 189号(春号)・190号(秋号)・191号(初冬号)・192号(立春号)



2 ホームページ等による情報発信

社協活動、全社協 被災地支援・災害ボランティア情報をもとに被災地支援情報等を随時更新し、発信をしている。

3 SNSを活用した情報発信

Twitter、Facebook、LINE、YouTube を活用しながら、社協の活動や災害ボランティア情報等を積極的に発信し、タイムリーな情報発信を行っている。また、試験的に Instagram を活用し子育て支援に関する情報の発信を行った。

11. リフトカー運行事業

リフトカー運行事業

著しく歩行が困難で車いす等を利用している人や、寝たきりの状態で既存の交通機関を利用することが困難な人に対してリフトカー2台の運行を行っている。障がい者や高齢者の社会参加の1つの手段として活用いただくことで、福祉の増進を図ることを目的としている。



令和4年度実績

ワクチン接種のための運行や、感染対策をしての通院などを行っている。

利用登録者数:53名(前年比 -3名)
稼働日数 :253日(前年比 +2日)／利用延べ人数:637人(前年比 +44名)

12. 福祉バス運行事業

福祉バス運行

地域福祉団体がミニデイや福祉推進委員の視察研修などに使用するほか、福祉団体も各種イベントやスポーツ大会への参加、先進地の視察研修などに使用するなど、多くの団体に活用されている。団体利用が1週間以上ない場合は、バッテリーの電気不足を起こさないよう、車両の点検と整備のため稼働している。

令和3年度に新車両への入れ替えをおこなったが、利用者アンケートでは安心して乗れる、乗り心地もよいなどの声をいただいている。

令和4年度実績

福祉バス運行状況:乗車26人乗り(マイクロバス)
稼働日数:124日(前年比 +8日)／延べ利用者数 1818人(前年比 +1023人)
延べ利用団体数:103団体(前年比 +52団体)



13. 福祉用具貸出事業

共募／老人福祉

在宅生活のため車いすや電動ベッドを必要とするが、介護保険制度を利用することができない場合、または認定が通知されるまでの期間に、車いすと電動ベッドの短期間貸出しを行っている。また、ワクチン接種会場、小学校の福祉教育、職員研修のためなど、団体への車いす貸出しも増えている。

令和4年度実績

貸出件数:車いす 67件(前年比 -6件) 電動ベッド 1件(前年比 -2件)
団体貸出件数:車いす 17団体(計55台)

14. 福祉用具リサイクル事業

共募／老人福祉

不要になった電動ベッドや車いすなどの福祉用具を必要としている方につないで、まだ利用可能な福祉用具を活かすことを目的としている。

令和4年度実績

登録件数:0件(前年度比 ±0 件) 斡旋件数:0件(前年度比±0 件)

15. ハンディキャブ貸出事業

共募／福祉育成

車いすを利用している人や車いすを利用しないと外出が困難な人に、車いすに乗ったまま乗車できる軽自動車(ハンディキャブ)の貸出しを行っている。ハンディキャブを利用することで障がい者や高齢者の外出を容易にし、家族の負担を軽減することを目的としている。運転ボランティアグループ「むつわ」(登録人数 7 名)が高齢のため、運転ボランティアという性質上安全を考慮し、令和3年度をもって解散となった。

令和4年度実績

利用登録者数:25名(前年比-7名)

ハンディキャブ貸出事業実績

稼働回数:52回(前年比 -25 回) / 延べ利用者数 55人(前年比 -38 人)

運転ボランティア運行:1回(前年比 -49 回)

16. 高齢者福祉対策事業

共募／老人福祉

大野城市の高齢化率は、22.2%(令和5年3月末現在)とここ数年ほぼ横ばいである。現在、進められている生活支援体制整備事業は、これから高齢者福祉対策の重要な施策の1つとなっている。

令和4年度実績

1 大野城市シニアクラブ連合会に対する活動援助

シニアクラブ連合会では、活力ある長寿社会の実現に向けて、生きがいと健康づくりや長年培ってきた知識、経験を地域社会のために生かす取り組みや、通学路における小学生の見守り活動等を展開されている。

職員派遣

期 日 : 令和4年5月24日(火)

場 所 : 大野城市総合グラウンド

内 容 : 第31回大野城市シニアクラブ連合会ペタンク大会

期 日 : 令和4年6月21日(火)

場 所 : 大野城市総合グラウンド

内 容 : 第35回大野城市シニアクラブ連合会グラウンドゴルフ大会

2 大野城市シニアクラブ連合会への助成

共同募金配分金の助成による活動支援と会員相互の健康保持のための活動や健康医療講演会、訪問見守り活動などの活動を支援している。

17. 身体障がい者福祉対策事業

共募／障がい

身体障がい者福祉協会や障がい者施設団体連絡協議会等、当事者組織と連携を図り、ハンディを持つ人たちの社会参加をサポートしながら、当事者団体が企画する事業や会議に社協からも出席し、必要に応じての支援や情報提供を行っている。

- 1 翔んでふれあって2022（大野城市障がい者大運動会）
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- 2 重度障がい者社会参加事業
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- 3 大野城市身体障がい者福祉協会への支援

共同募金配分金での助成を行なうとともに、事業の実施における活動支援をおこなった。

- 4 大野城市障がい者施設団体連絡協議会への支援

◇ほっとすぽっと「サン・サン」の支援(基本第2・4土曜日/まどかぴあ)
◇大野城心のふるさと館内(ここふるショップ)における授産品の販売
◇公開講座 日時:令和4年12月3日(土)14:00～15:30
講演:『任意後見制度』
講師:公益社団法人 成年後見センター・リーガルサポート福岡支所
加留部 恭子 氏 (大名協同司法書士事務所)
参加者:42名
会場 総合福祉センター 3階 大会議室

18. 知的障がい児者福祉対策事業

共募／障がい

ふれあいの旅は、ハンディのある人とボランティアと一緒に時間を過ごすことでお互いの成長につながる旅である。1泊2日で秋に実施してきたふれあいの旅だが、新型コロナウイルス感染症を考慮し、令和2年度からは日帰りの旅として行い、令和4年度は4回に分けて行った。また同時に、「ふれあいの旅40周年盛り上げ隊」と称し、ボランティアの皆さんと実施内容を検討したことで、様々なアイデアを盛り込んだ旅となった。

様々なアイデアを盛り込んだ旅になった。

令和4年度実績

- 1 ふれあいの旅2022（第40回）

期 日 : ①令和4年6月11日(土) ②6月12日(日) ③6月18日(土) ④6月19日(日)
場 所 : ハウステンボス

参 加 者 :

- ① 32名(参加者12名、ボランティア14名、職員4名、看護師1名、添乗員1名)
② 28名(参加者11名、ボランティア12名、職員3名、看護師1名、添乗員1名)
③ 29名(参加者10名、ボランティア13名、職員4名、看護師1名、添乗員1名)
④ 27名(参加者11名、ボランティア11名、職員3名、看護師1名、添乗員1名)

協 力 : 大野城市ボランティア連絡協議会、大野城市障がい者施設団体連絡協議会

後 援 : 大野城市手をつなぐ育成会、大野城市社会福祉法人連絡会

2 大野城市手をつなぐ育成会への助成

共同募金配分金をとおり、その活動の助成を行っている。

19. 子育て支援事業

共募／
児童青少年

大野城市に転入して間もない親子や、子育てに悩む親の支援、居場所や仲間づくりを支援するサークル登録、保育所への遊具設置など、子育て時期の不安や孤独を軽減し、親と子どもたちが安心して過ごせる場を提供し、子育てしやすい環境づくりを図っている。

令和4年度実績

1 子育て支援事業

支援内容：総合福祉センター利用料免除及び福祉バスの利用や遊具の貸出
子育てサークル活動費補助(3サークル)

登録サークル：4サークル(会員数82名)【前年:令和3年度:4サークル(会員数80名)】

◇登録子育てサークル一覧

サークル名	主な開催場所	活動時間	会員数
ぷちらいおん	総合福祉センター	1ヶ月に1回程度	18名
子連れストレッチ	乙金公民館	毎月第2・4金曜日	15名
こあらくらぶ	乙金公民館	毎月第1金曜日	20名
ままいる	大野城心のふるさと館ほか	毎月2回(不定期)	29名

2 「子育てサークルだより」の発行

主旨：安心して子育てできる環境を目指し、地域のサロンや、登録サークルの活動内容や市内外の子育て支援に関する情報などを発信している。新型コロナウイルスの影響で公共施設が閉館になり、サロンが中止になった時期は、サロンやサークル、おもちゃ病院の中止や開催のお知らせ、社協職員のお勧め絵本をその絵本に関する思い出と共に掲載した。

発行号：87号・88号・89号・90号・91号・92号

配付先：登録サークル4団体、コミュニティセンター、アスカーラ（まどかぴあ）、市役所こども未来課、子育て支援課、大野城心のふるさと館、ファミリー交流センター、れいわ子ども情報センター、福祉委員、コミュニティ福祉部会連絡協議会

4 保育所に遊具等の助成【こすもすナーサリー】

共同募金配分金より毎年1ヶ所私立保育所へ遊具等の助成を(251,456円)行なっている。

5 遊具の貸出状況

子どもの健やかな成長を支えること、また、地域での遊びの機会を支援することを目的に、社会福祉協議会に登録している子育てサークル及び各区公民館で開催される子育てサロンに遊具の貸出しを行っている。新型コロナウイルスの影響が徐々に落ち着き、少しずつサロン活動が増え貸出申請は20件。

6 第2回 Link～子育て支援つながろう会(子育て支援者関係構築)

日ごろ子育て支援活動をされる方々が、活動の思い・悩みを語り合い、情報交換や顔の見える関係構築につながることを目的とし実施した。

内 容： 「活動発信」というお話を話し合い、今後のサロンの在り方など様々な課題を共有することができた。また、子ども情報センター桑野専門員に登壇してもらい、サロンの意義や継続することの大切さなどを伺うことができた。Link 開催後のアンケート結果からは主催者や活動者同士のつながりを求めている方が多いことが分かり、今後の内容や開催時期を検討していく。

期 日： 令和4年6月29日(水)

参加者： 23名

場 所： 大野城市総合福祉センター 多目的室



20. 児童青少年福祉対策事業

共募／
児童青少年

令和4年度実績

1 大野城市子ども会育成会連絡協議会への助成

共同募金配分金を活用し、子ども会育成会では、「子どもが主役だ・地域で育てよう子どもたち」を主眼に、子どもの健全育成、地域(各単位子ども会)の発展に向けて、活動が展開されている。

2 保護司会への助成

共同募金配分金をととして、保護司会では保護司信条である社会奉仕の精神をもって、過ちに陥った人たちの更生に尽くされる活動が行われている。

21. 学校における福祉教育

共募／児
童青少年

令和4年度実績

1 福祉教育教材「ともに生きる」活用推進

小学校へ希望調査を行い、小学校3・4年生を対象に配布し、教材を基本とした授業を実施した。

対 象： 市内小学校3年生または4年生、大野城市教育委員会
配 布 数： 1,230部

2 学校における福祉教育

今年度も「オンライン交流」と「教室でできるミニ体験」を中心に福祉教育を実施した。

	開催日	学校名・学年	内 容	ゲストティーチャー
1	5 月 31 日	下大利小 3 年	オンライン交流「車いすの使い方」	社協(介護サービス課)
2	6 月 10 日	大城小 4 年	オンライン交流「視覚障がい」	視覚障がい者、ガイドヘルパー
3	6 月 14 日	大野東小 4 年	オンライン交流「地域の福祉活動」	民生委員1名
4	6 月 15 日	大利小 4 年	オンライン交流「視覚障がい・1 回目」	視覚障がい者、ガイドヘルパー
5	6 月 21 日	大城小 4 年	オンライン交流「障がいってどういうこと？」	はまゆうワークセンター大野城
6	6 月 21 日	大野北小 4 年	オンライン交流「ユニバーサルデザイン」	社協(地域課)
7	6 月 28 日	大野東小 4 年	オンライン交流「高齢者について」	ラ・ナシカ乙金(職員・利用者)
8	6 月 29 日	大利小 4 年	オンライン交流「視覚障がい・2 回目」	視覚障がい者、ガイドヘルパー
9	7 月 5 日	大城小 4 年	オンライン交流「障がいがある人の社会生活」	はまゆうワークセンター大野城(職員・利用者)
10	7 月 8 日	下大利小 4 年	オンライン交流「高齢者・認知症について」	さわやかテラス大野城中央
11	7 月 14 日	下大利小 4 年	オンライン交流「施設見学」	さわやかテラス大野城中央(職員・利用者)
12	9 月 13 日	大野南小 4 年	オンライン交流「視覚障がい」	視覚障がい者、ガイドヘルパー
13	9 月 28 日	大城小 3 年	オンライン交流「認知症について・施設見学」	せんだんの丘(職員・利用者)
14	9 月 29 日	大野小 4 年	オンライン交流「高齢者を支える地域の取り組み」	福祉委員、民生委員
15	10 月 3 日	大野東小 3 年	オンライン交流「車いすの使い方」	社協(介護サービス課)
16	10 月 4 日	平野小 3 年	オンライン交流「視覚障がい」	視覚障がい者、ガイドヘルパー
17	10 月 6 日	大野南小 4 年	オンライン交流「からだの自由について」	社協(介護サービス課)
18	10 月 11 日	平野小 3 年	オンライン交流「聴覚障がい・手話について」	聴覚障がい者、手話ボランティア
19	10 月 12 日	下大利小 3 年	車いすバスケット体験	車いすバスケット選手
20	10 月 13 日	大野小 4 年	オンライン交流「障がいって何」	あけぼの園(職員)
21	10 月 18 日	平野小 3 年	オンライン交流「からだの自由について」	社協(介護サービス課)
22	10 月 20 日	大野東小 3 年	オンライン交流「ユニバーサルデザイン(文房具)」	社協(地域課)
23	10 月 21 日	大野小 4 年	オンライン交流「視覚障がい」	視覚障がい者、ガイドヘルパー
24	10 月 26 日	大野南小 4 年	オンライン交流「聴覚障がい・手話について」	聴覚障がい者、手話ボランティア
25	10 月 26 日	大野東小 3 年	オンライン交流「視覚障がい」	視覚障がい者、ガイドヘルパー

26	11月15日	大野小4年	オンライン交流「障がいのある人の社会生活」	あけぼの園(職員・利用者)
27	11月17日	大野南小4年	オンライン交流「障がいのある人の社会生活」	第三野の花学園、まどか・ゆいばる(職員・利用者)
28	12月8日	大野東小4年	オンライン交流「ビデオメッセージ」	ラ・ナシカ乙金(職員・利用者)
29	2月6日	大野小4年	オンライン交流「ボランティアセンター見学」	社協(地域課)
30	2月15日	大野東小4年	オンライン交流「ボランティアセンター見学」	社協(地域課)
31	2月21日	月の浦小3年	オンライン交流「視覚障がいについて」	視覚障がい者、ガイドヘルパー
32	2月27日	月の浦小3年	オンライン交流「からだが不自由について」	社協(介護サービス課)

3 福祉教育研修会 未実施

4 大野城市福祉教育推進校の共同事業

市内の10小学校の中から福祉教育推進校となる1校を教育委員会・校長会で選定していただき、1期2年として福祉教育教材「ともに生きる」を活用したプログラムを学校・市・社協の三者で取り組んでいる。

コロナ禍を踏まえ、意見交換を行いながら新たな福祉教育プログラムづくりに取り組んだ。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 第1期 (平成28年・29年度) | 大野小学校4年生 |
| 第2期 (平成30年・令和元年度) | 大野北小学校3年生・4年生 |
| 第3期 (令和2年・3年度) | 大野南小学校4年生 |
| 第4期 (令和4年・5年度) | 大野東小学校4年生 |

22. 母子父子福祉対策事業

共募／
母子・父子

ひとり親家庭の相談に対する支援(母子会会議での助言や活動支援等)を行なっている。

令和4年度実績

1 大野城市母子寡婦福祉会への支援

共同募金配分金を活用して、大野城市母子寡婦福祉会では、日常における母子家庭の生活の安定等を目指して、自立促進につながる総合的なひとり親家庭の施策を充実するための活動が展開されている。

- ◆福岡県(受託:福岡県母子寡婦福祉連合会)学習支援ボランティア事業の支援
- ◆クリスマス会等の行事支援
- ◆企業からの物品寄附のコーディネート

23. 介護者支援事業

共募／老人福祉

高齢者等の介護をされている家族を対象に、日帰りのリフレッシュ事業などを開催し、介護者同士のつながりをつくることなどを目的として事業を実施している。

令和4年度実績

介護者同士が交流や情報交換を図ることで介護に関する不安や悩みを軽減していくことを目的として、「介護者のつどい」を実施している。近年、市内で複数の介護者を対象とした活動（認知症カフェなど）が展開されているので、既存の社会資源を活用しながら介護者支援を活性化していく。

1 介護者のつどい

内 容：大野城市内に在住の高齢者（障がい含む）を介護中の方を対象に、介護者のつどいを案内し、地域包括支援センターが実施するオレンジカフェへ参加をするかたちで実施した。

期 日：令和5年3月13日（月）

場 所：大野城心のふるさと館（曙町3-8-3）

24. ふくしフェスティバル 2022

共募／福祉育成・援助活動

幅広い層の市民が参加しやすい実行委員会形式で、住民の福祉についての関心を高め、理解を深めることを目的として企画実施している。新型コロナウイルスの影響で令和3年度までの2年間来客を募る形での開催を控えていた後の開催であることや若者層の参加を促すために、令和4年度は初めてフェスティバル実施前の「プレイベント」を実施した。アンケートには186件の回答を頂き、福祉に関する理解促進については93%が「理解に繋がった」との回答であった。

令和4年度実績

【ふくしフェスティバルプレイベント】

内 容：トイカプセルに入ったふくしクイズへの挑戦

期 日：令和4年11月20日（日）

場 所：イオン大野城店

参 加 者：444人

【ふくしフェスティバル2022】

内 容：福祉施設・団体のステージ発表、作品展示販売コーナー、ボランティア体験コーナー、工作コーナー、ふくしの心を育てる子どもブース、劇団AFRICA（アフリカ）ライブ＆ワークショップなど

期 日：令和4年11月27日（日）

場 所：大野城まどかぴあ・南側広場・まどか広場・大野城市総合福祉センター・大野城心のふるさと館

参 加 者：約8,000人

主 催：大野城市ふくしフェスティバル実行委員会

共 催：大野城市・大野城市社会福祉協議会

25. 福祉食事サービス(市受託事業)

福祉食事
サービス

令和4年度実績

	高齢者	障がい者	合計	(前年比)
延べ利用者数(人)	974	37	1,011	99%
食数計(食)	24,817	1,928	26,745	100%

在宅日常生活支援事業として、ひとり暮らしの高齢者、障がいを持った方などに1年365日食事(昼・夕)を宅配しながら安否確認・見守りを行っている。この事業では、ボランティアグループ「ききょう」の作成による絵手紙を毎月お届けしている。

26. ボランティア活動推進

ボランティアセンター

コロナ禍でも工夫しながらボランティア活動を続けるボランティアセンター登録団体を対象に、社協主催の助成を行い、13団体に助成することができた。また、なかなか活動ができないからこそ、活動PR用のチラシを作成したり、イベントを企画したりとつながりを絶やさず活動を行っている。

令和4年度実績

1 ボランティア活動相談・コーディネート状況

ココーディネート延べ件数：136件[内、ボランティア保険88件 543名加入]

※相談延べ件数：59件

- ・活動希望・情報収集に関する相談件数：48件
- ・ボランティアニーズに関する相談件数：21件

※コーディネートを行ったボランティア活動の主な内容

- ・何かボランティアをしたい、自分にできるボランティアを知りたいという方へ
その方の興味のあることを聞き取ったうえでグループを紹介・活動できる場の提供
(切手整理、学習支援、手話、子育て支援、高齢者との懇談、不登校児支援 他)
- ・やりたい分野が決まっている方へ
団体の代表に確認をとり紹介
(手話の会、点訳サークル、拡大写本、傾聴、朗読の会、子ども食堂 他)

- ・施設(高齢者施設、放課後等デイサービス)や地域からの団体に来てほしいという依頼に対して
施設の希望と団体や、登録している個人の方の予定の調整
(レクリエーション、傾聴ボランティア、三味線、フルート、沖縄民謡、ひよっこ、手品 他)

2 ボランティアセンター運営委員会

運営委員(4名)：民生委員経験者、ボランティア連絡協議会、障がい者施設団体連絡協議会、有識者各1名

開催回数 : 4回

開催年月日			議 題	出席者
令和4年	4月5日	第1回	・おおのじょうボランティアのつどいについて(振り返り) ・運転ボランティア募集について ・ボランティアエントリーシステムについて ・Young Free Helper について ・法人化 50 周年について	3 名
	7月19日	第2回	・おおのじょうボランティアのつどいについて ・ボランティアエントリーシステムについて	3 名
令和5年	1月5日	第3回	・おおのじょうボランティアのつどいについて	3 名
	3月20日	第4回	・おおのじょうボランティアのつどいアンケート集計結果と今後について ・ボランティアセンター登録団体の活動資金について	3 名

③ Young Free Helper

学生ボランティアの増加やボランティア活動について幅広い世代に知ってもらうことを目的に、学生目線のボランティア活動について考えるため、令和3年5月に発足。令和4年度は小学生を対象としたレクリエーションイベントを企画し取り組んだ。

運営委員：学生8名

開催回数 : 10回

開催年月日			議 題	出席者
	5月13日	第1回	・自己紹介 ・Young Free Helper とは ・ボランティアとは、ボランティアセンターとは	3 名
	6月23日	第2回	・役割決め ・今後の活動について ・広報について(Instagram の活用)	5 名
	7月7日	第3回	・企画案の具体化(高齢者からならう昔遊び)	5 名
	8月4日	第4回	・ランドセルクラブとの打合せ	4 名
	8月24・25日		・イベント準備	5 名
	8月26日	第5回	・イベント本番 ・イベントの振り返り	5 名
	9月16日	第6回	・イベントの振り返り ・今後やりたいこと ・社協ふくしの祭典について	2 名
	10月22日	第7回	・今後やりたいこと(自然保護活動)について	3 名
	11月28日	第8回	・自然保護活動についての予定立て	3 名

	12月19日	第9回	・緑のトラスト協会「令和4年度森林整備活動」参加について ・次年度の新メンバー募集について	3名
令和5年	1月5日	第10回	・「大学・短大等における学生ボランティア活動支援連絡会」について ・緑のトラスト協会「令和4年度森林整備活動」参加について	6名

4 被災地（久留米・大牟田等）での災害ボランティア活動希望者への情報提供・コーディネート等

大野城市民の方々に被災地においてボランティア活動を希望される方への情報提供や、ボランティア保険の手続きを行い、被災地にて注意すべきアドバイス等を行いながら送り出しを行った。

被災地での活動人数：29名（大野城市社協にて保険手続きを行われた方の人数）【前年比 －41人】

5 ボランティアエントリーシステムの運用

ホームページから簡単に申込ができるようなツールとしてのシステム構築し、ボランティアの募集を行った。今後も随時、気軽に参加できるようなボランティア活動メニューを増やしていく。

募集したボランティア活動メニュー

- ・食料支援 ・運転、送迎ボランティア ・若者を対象としたボランティア（YFH）
- ・ふれあいの旅 ・子育て支援（スマイルフレンズ、親子でリトミックなど）
- ・ふくしフェスティバル ・ボランティアのつどい ・社協ふくしの祭典
- ・グループ活動の補助 他

6 ボランティアセンター登録

★ボランティア登録者数（団体登録者 807名 個人登録者 171名）

★ボランティア団体登録状況

総合福祉センター1階のボランティアセンターを拠点に活動しているボランティアグループの支援を行うとともに、ボランティアセンターはボランティアの集まり・交流の場として、なくてはならないスペースであり、コピー機や大型プリンターは各種団体や地域の利用も増えている。また、ボランティア連絡協議会は、ふれあいの旅等において協働するとともに、共同募金配分金をとおしてその活動への助成を行っている。

◆大野城市ボランティア連絡協議会 構成数 8グループ

グループ名	活動内容	会員数
大野城手話の会	手話講習会の開催、手話通訳者の派遣、聴覚障がい者との交流会	33名
点訳サークル あゆみの会	点訳講習会の開催、各種点訳活動、視覚障がい者との交流会	14名
朗読の会 文鳥	朗読講習会の開催、社協だよりや図書の吹き込み、視覚障がい者との交流会	23名
スニーカー	手をつなぐ育成会の支援、知的ハンディを持つ方々とのレクリエーション活動	10名
介護ボランティア ききょう	特別養護老人ホームでのお手伝い、食事サービス利用者への絵手紙づくり	13名
おもちゃの図書館 あいあい	障がいを持つ子どもも持たない子どもも、共に遊ぶおもちゃの図書館の開館、手作りおもちゃの作成	18名
拡大写本 虹の会	弱視の方から要請のある図書の拡大写本づくり、視覚障がい者との交流会	9名

大野城要約筆記の会びあ	聴覚障がい者への文字による同時通訳活動、要約筆記奉仕員養成講座の開催	9 名
-------------	------------------------------------	-----

◆ボランティアセンター登録グループ 32 グループ

グループ名	活動内容	会員数
NPO法人 アジア女性センター	子どもと女性の人権を守るためのサポート事業、海外支援、交流事業、提言、ネットワーク事業(調査、研究)	143 名
グループファンタジア	施設や敬老会等でのマジックボランティアやマジックによる各種団体との交流活動	10 名
創人エイサー守破離太鼓	施設や老人会、地域でのイベント等での演舞	20 名
国際交流協会	コミュニティ活動等を活かした国際交流の推進	106 名
おもちゃ病院大野城	壊れたおもちゃの修理	4 名
花の芽クラブ	障がいのある人となない人が一緒に楽しめる風船バレーボールを通しての交流活動及び普及活動	24 名
ボランティアグループりんごの会	近隣の公民館や福祉施設等で唄や踊り、楽器演奏などを通しての慰問活動	7 名
大野城傾聴ボランティア「ダンボ」	大野城市内の施設等における傾聴ボランティア活動	15 名
大野城学習支援室かぼちゃ	生活困窮家庭の子どもに対する学習支援や保護者への進学助言を行う	18 名
おやのかい MIRAI	発達障害の子どもや保護者、発達障害に理解ある者が会員となり、発達障害の子どもたちが安心して就労できる企業や事業所を訪問して増やす活動	41 名
にほんご教室きんしゃい	留学生等の外国人に日本語を教え、学習することをおして国際交流を図り会員相互の理解を深める活動	5 名
演歌しゃくなげ	施設等においてギターや三味線、大正琴などの楽器を使って季節の童謡や歌謡曲、懐メロ音楽を演奏	10 名
マジック雅	マジックを通じた地域の方々との交流や、地域社会の活性や社会福祉の情操を目指した活動	13 名
LaLaLa 音楽レクリエーション	介護予防や認知症予防のための音楽療法やレクリエーションの要素を取り入れた音楽や、子どもを対象にした音とリズムと歌を楽しむ活動	8 名
シニアネットオーケストラ	施設等での童謡・唱歌・懐メロなどの昔懐かしい曲の生演奏活動	32 名
いきいき健康レクササイズ	レクリエーションの要素を取り入れた椅子に座ったままできる運動(エクササイズ)や昔懐かしい歌を取り入れた運動	18 名
Blue Bear Project	老人ホームでのふれあい演奏会や学校等でのライブ演奏	11 名
なんくる一ず	デイサービスや老人ホーム、公民館等で三味線を使った沖縄民謡や童謡等の演奏	12 名
えがおの会「ハレハレ～hare *hale～」子どもの居場所	様々な理由で学校に行けない、または自分の居場所がないと感じる子どもの居場所をつくる活動	7 名
災害ボランティア 「ONOJO」	災害ボランティアとして必要な知識やスキルを学びながら、支援の輪を広げる活動と災害時支援活動	14 名

MELODY	音を奏で、演者も聴いてくださる方も楽しい時間を過ごしていただきたいと願い活動を行っている	8 名
ハーモニカ風の会	仲間づくり、健康づくり、ボケ防止、心と体の健康に必要なのは、笑える仲間づくりと語れる笑いづくり。独奏、合奏などを行う。	14 名
絵本箱	世代を超えて、みんなで絵本を楽しむ	5 名
防災ほっとキッチン	災害時にあたたかい食事をとれるように、パッククッキングの普及活動 HUG（避難所運営ゲーム）の普及活動	9 名
とっ・とー・たい	ボランティア活動を推進するため、会員の経験と知識を活かし、他人や社会に貢献する活動を中心とした、地方公共団体、大野城市社会福祉活動の推進に取り組む団体と、会員の連絡等、良好なボランティア維持および形成に質する共同活動を行うことを目的とする	19 名
スペース虹	学校に行けない子どもたちや生活が厳しい家庭の子どもたちの居場所を開設し、食事や学習等を支援し、生活の場を提供する活動	16 名
認定 NPO 法人チャイルドケアセンター	こどもたちを中心に、様々な地域の方が多世代にわたり集い、交流する場（こども食堂やフードパントリー等）を提供する活動	14 名
大野城まどかぴあ図書館ブックトークボランティア本のとびら	小・中学生の朝読や授業で 1 つのテーマに沿った本（児童書、小説、科学本など）を紹介し、読書の楽しさを知ってもらう活動	9 名
Colorful-HappyFull	不登校児を抱えるご家庭に訪問し当事者及びそのご家族のカウンセリング、その他様々なプロと繋がるサポートを行う。	9 名
スマイルフレンズ	子育てする親子が、毎回 1 つのテーマに沿って共感し合いながら友だち作りができる場、情報を提供する場です。	4 名
上大利翔劇団(新規)	個人の芸の向上と相互の親睦を深め、日頃努力された結果を披露しながら、お年寄りへの憩いのひとときを提供	42 名
オレンジキッチンわれもこう(新規)	記憶に不安のある方、認知症を知りたい方、一人暮らしの方と一緒に料理を作り、食事をし、話をするサロンです。	11 名

計 678 名（前年 599 名）

8 声の広報

目の不自由な方や寝たきりの方に、青年団体連絡協議会が市の広報を、朗読の会「文鳥」が社協だより、季節のたより『紙飛行機』、希望図書等を CD に録音し、当事者の方の近況確認のため、社協担当職員が自宅に届けているが、現在当事者の方からの希望でポスト投函が 9 名中 4 名、他の方も家族が受け取ることが多く、今後は特定録音物等郵便物にて送付予定。

令和 4 年度実績

回 数： 24 回
登録利用者数： 9 名

27. 被災地支援活動

法人運営費

共募／福祉育
成・援助活動

大野城市社会福祉協議会では、平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災にて被災し、地震、津波、原発事故、風評の被害がある福島県南相馬市を継続的に支援している。“忘れない”を合言葉に寄り添い、支援を続けている。

令和4年度実績

1 令和4年度東北応援の旅

2011年に発生した東日本大震災から11年を迎え、3年ぶりに東北応援の旅を実施。被災地のその後の様子を視察するとともに、震災直後より、つながりのある南相馬市社協との交流を深めることができた。参加者からも「これからも忘れずに、ずっと応援し続けていこう」という声がたくさん寄せられた。

【実施日】 令和4年11月7日(月)～9日(水) 2泊3日

【参加者】 15名

【行き先】 福島県、宮城県、岩手県

1日目 閑上の記憶、小高駅、南相馬市社会福祉協議会

2日目 震災遺構・大川小学校(視察)、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館(気仙沼向洋高等学校)
おおふなと夢商店街

3日目 道の駅平泉道の駅おおさと、松島

2 被災地応援「福島県応援ショップ」の運営支援

総合福祉センター1階ロビーにて、「福島県応援ショップ」として福島県南相馬市の特産品等を中心に販売を行っている。購入を通じた支援を行いながら、「つながり」を大切に、息の長い応援を継続する。福島県応援ショップ休日・夜間の「相馬きゅうり」購入要望に応るため、1階ロビーに自動販売機で販売している。

東日本大震災の復興プロジェクトのひとつとして立ち上げられた、南相馬市の福祉作業所“えんどう豆”へ社協法人化50周年に向けた啓発バッジ400個の作成を依頼した。

< 権利擁護課 >

28. 総合相談事業

総合相談事業

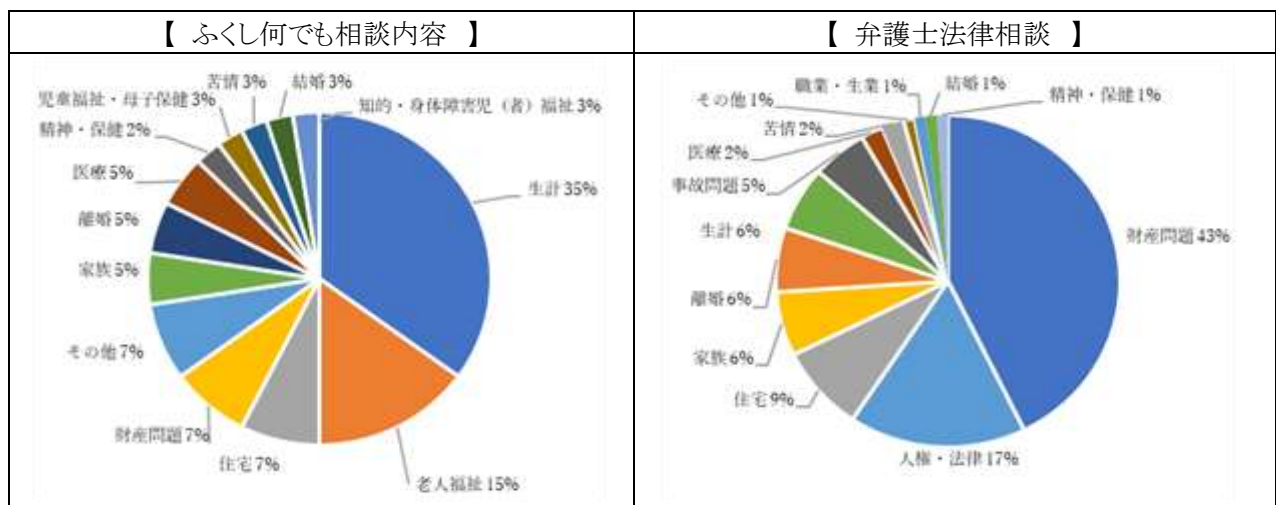
地域住民の悩みを一緒に考え、よりよい解決策をさがし、問題解決を図るため、弁護士による専門相談員や常勤相談員による助言を行う場を総合福祉センター内に設けている。

地域住民の身近な地域で相談事業を実施するため、東地区は東コミュニティセンター、北地区は北コミュニティセンター、南地区は牛頸公民館、中央地区は総合福祉センターにおいて、弁護士による相談事業を実施した。新型コロナウイルスの影響から、生活に不安を感じている方等からの相談が増加傾向にある。

1 相談内容・状況等

令和4年度実績

相談内容	相談日	相談件数 (開催回数)
ふくし何でも相談	月曜日から金曜日 9:00～17:00	76 件
弁護士による電話法律相談	毎月第2木曜日 10:00～12:00	28 件(11 回)
弁護士による心配ごと相談	毎月第1から第4火曜日 10:00～12:00 第1・第4火曜日のみ 13:00～15:00	168 件(65 回)
弁護士による心配ごと相談 (総合福祉センター・コミュニティセンター・牛頸公民館)	(時間はいずれも 10:00～12:00) 東コミュニティセンター 7月2日(土) 北コミュニティセンター 7月16日(土) 牛頸公民館 7月30日(土) 総合福祉センター 8月20日(土)	1 件 1 件 2 件 1 件



2 相談員懇談会の開催

相談事業における近年の傾向や要望を基に、市民が活用しやすい相談事業のあり方を協議し、改善点(開催回数・開催内容)の確認と相談事例の情報交換を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、弁護士5名、相談関係職員に資料を送付した。

3 地域のニーズに応えるための協議・確認事項

他機関における各種相談との差別化を図り、法律相談以前の身の上相談を含む幅広い相談に対応している。広報についても担当弁護士と連携を図りながら積極的に取り組み、地域の方に広く利用していただけるよう環境づくりに努めている。

29. 生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

生活福祉資金
貸付事業

令和4年度実績

コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年3月より相談、申込が開始された特例貸付が期間中10回に渡る延長が行われていたが令和4年9月末をもって申請受付が終了となった。

相談、申請数については減少しているものの、長引く影響の中で相談者の課題も、複雑、多岐に渡るケースが増加してきており、他機関、他制度の連携が必要となるケースが増加してきている。

◇生活福祉資金相談・貸付状況

(※相談件数は初回相談時を標記 ※決定件数は令和3年度申込分を含む)

種 別 / 内 容		相談件数	申込件数	決定件数	貸 付 額
総合支援資金	生活支援費	60	36	32	15,440,000 円
	住宅入居費	0	0	0	0 円
	一時生活再建費	0	0	0	0 円
教育支援資金	就学支度費	9	8	8	2,513,000 円
	教育支援費	24	8	8	2,090,000 円
福祉資金	生 業	0	0	0	0 円
	技能修得	2	0	0	0 円
	葬 祭	0	0	0	0 円
	転 宅	11	0	0	0 円
	福祉用具購入	0	0	0	0 円
	障がい者自動車購入	1	0	0	0 円
	住宅改修	1	0	0	0 円
	療養・介護	2	0	0	0 円
	災害援護・国年・エ アコン・必需品	0	0	0	0 円
	緊急小口資金	112	69	75	8,647,000 円
不動産担保型生活資金		5	0	0	0 円
その他		201	0	0	0 円
合 計		428	121	84	28,690,000 円

◇臨時特例つなぎ資金相談・貸付状況

種 別 / 内 容	相談件数	申込件数	決定件数	貸 付 額
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0 円
合 計	0	0	0	0 円

30. 特例貸付相談支援事業（県社協受託事業）

コロナウイルス感染症の拡大に伴い令和2年3月より相談、申請が開始された特例貸付が令和4年9月末をもって申請受付が終了となった。

令和5年1月から償還が開始されるが、令和4年8月時点での償還免除の状況としては全体の15～20%程度となっており、80%以上が償還必要となる世帯もため、今後も継続的な相談支援が必要となることが予想される。

それに伴い、令和4年9月より月に1度（金曜日の夜間もしくは土曜日の午前中）に弁護士による個別無料法律相談を開始し、生活全般に関わる相談を行っていただけるよう案内を行った。

また、令和4年9月貸付対象者に対して現状把握及び困りごと把握を目的とアンケート調査を実施。今後の相談対応の増加に対応するために職員を1名増員し相談対応にあたった。

令和4年度実績

相談内容	相談日時	相談件数 (開催回数)
個別無料法律相談	令和4年 9月24日(土) 10:00～12:00	4件
	令和4年 10月21日(金) 18:00～20:00	2件
	令和4年 11月19日(土) 10:00～12:00	2件
	令和4年 12月23日(金) 18:00～20:00	1件
	令和5年 1月21日(土) 10:00～12:00	2件
	令和5年 2月17日(金) 18:00～20:00	0件
	令和5年 3月25日(土) 10:00～12:00	1件

31. 日常生活自立支援事業

日常生活自立
支援事業

社会福祉法に基づき、認知症の方、知的障がい者、精神障がい者の方で判断能力が不十分なため日常生活が困難な方に対して、自立した地域生活が送れるよう、社協に生活支援員を配置し、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理、書類等（預貯金通帳）の預かり等のサポートを行っている。

日常生活自立支援事業は、市民参加が難しい権利擁護事業において、唯一市民参加が可能な事業として位置づけし、地域福祉関係者に生活支援員を担っていただき、令和4年度は6名の生活支援員を増員した。しかしながら、利用相談に関しては増加傾向にあり、それに比例し利用者数も増加していることから本年度についても生活支援員養成研修会を開催し、広報啓発とともに市民生活支援員の養成、増員を行っていく。

令和4年度実績

- ◇新規相談件数 :26名（男性12名 女性14名） 前年18名(男性8名 女性10名)
 類型内訳:認知症21名 精神5名 知的0名
- ◇利用者数 :31名（男性17名 女性14名） 前年27名(男性15名 女性12名)
 類型内訳:認知症20名 知的3名 精神8名
- ◇専門員 1名 専門員 1名

◇生活支援員 援助活動実績表 生活支援員 15 名(内、担当社協職員 3 名)

	件数	回数	終了	開始
4月	28	56	0	1
5月	31	48	0	3
6月	31	64	0	0
7月	31	54	1	1
8月	31	63	0	0
9月	30	55	2	1
10月	30	59	0	0
11月	31	55	0	1
12月	29	58	2	0
1月	31	46	0	2
2月	33	55	0	2
3月	31	54	2	0
合計	367	667	7	11
前年度	319	602	11	9

◇生活支援員会議

開催日	内 容
4 月 21 日 (木)	・ 日常生活自立支援事業の現状と利用者状況について ・ 記録の方法について
7 月 14 日 (木)	・ 日常生活自立支援事業の現状と利用者状況について ・ 記録の方法に関する確認
10 月 13 日 (木)	・ 日常生活自立支援事業の現状と利用者状況について ・ グループワーク (支援している中での困り事、悩み事の共有)
3 月 20 日 (木)	・ 日常生活自立支援事業の現状と利用者状況について ・ グループワーク (支援時のアプローチ)

◇令和 4 年度生活支援員養成研修

県社協の権利擁護センター主催により、生活支援員に興味をお持ちの方、活動していただける方を対象に、オンラインにて養成研修を実施した。

研修を受けられた参加者のうち 2 名の方が令和 4 年度 11 月より活動支援いただいた。

1 回 目

期 日 : 令和 4 年 9 月 10 日(土)

場 所 : 大野城市総合福祉センター

参 加 者 : 5 名

2 回 目

期 日 : 令和 5 年 1 月 14 日(土)

場 所 : 大野城市総合福祉センター

参 加 者 : 4 名



32. 法人後見事業

法人運営費

令和4年度実績

1 成年後見運営委員会の開催

第1回成年後見運営委員会

期 日：令和4年9月29日(木)

場 所：大野城市総合福祉センター2階多目的室

運営委員：弁護士(1)、司法書士(1)、社会福祉士(2)、行政関係者(1) 計5名

内 容：①受任中ケースの報告(2件)

第2回成年後見運営委員会

期 日：令和5年3月16日(木)

場 所：大野城市総合福祉センター2階多目的室

運営委員：弁護士(1)、司法書士(1)、社会福祉士(1)、行政関係者(1) 計4名

内 容：①審議ケース(1件)、受任中ケースの報告(2件)

2 成年後見制度利用促進基本計画策定及び中核機関整備等の取組状況について

令和3年9月から、すこやか長寿課および福祉サービス課と社協で会議を重ね、令和4年6月に地域連携ネットワークのコーディネートを担う中核機関の設置を行った。令和4年度は、中核機関の主な役割(広報機能・相談機能・利用促進機能・後見人支援機能)の内、中核機関としてパンフレットの作成や研修会の開催等の広報機能および相談機能を中心に取り組み、相談受付表について、統一した書式を作成した。

33. ライフレスキュー事業

法人運営費

社会福祉法人の公益事業として県下で進められている生活困窮者等に対する相談・支援事業である「ふくおかライフレスキュー事業：主管福岡県社会福祉協議会等」に参加し、権利擁護事業の拡充を図る。この事業に参画する市内の社会福祉法人及び市の関係部署とも連携を図りながら、緊急を要する人への食材支援、ライフラインの復旧などの経済的援助(現物給付)を行い、個別支援を強化する。

令和4年度実績

若干数の相談を受け、状況を確認や、ご本人との面談の実施も行ったが、ご本人と会えない状況であったり、ライフレスキューの対象となる継続的な支援に結びつかず、ふくおかライフレスキュー事業に加入されている社会福祉法人との情報共有までには至らなかった。

34. 死後事務事業

生前の権利擁護として、日常生活自立支援事業や成年後見制度といった分野において権利擁護が行われるが、亡くなられた後の権利擁護、また亡くなった時の心配、不安を軽減させるための事業として、死後事務事業行なう。

令和4年度実績

令和4年度より事業開始。具体的な相談については行われていない。

<居宅介護サービス課>

35. 介護サービス事業

介護サービス事業については、地域福祉活動の視点をもって社協らしい介護サービス事業を展開すべく職員の資質向上に努めた。

市受託事業
居宅介護等支援事業
指定訪問介護事業
訪問型サービス
指定訪問入浴
障がい福祉サービス事業
地域生活支援事業

区分	施策	活動内容
介護保険事業	指定居宅介護支援事業	介護支援専門員によるケアプランの作成(要介護及び総合事業)
	指定訪問介護事業	訪問介護員が居宅に伺い、身体介護・生活援助のホームヘルプサービスの提供 〈実施〉月～日曜日 7:00～24:00
	指定訪問入浴介護事業	看護職員等が居宅に移動入浴車で伺い、浴槽を搬入し入浴介護サービスの提供 〈実施〉月～日曜日 8:30～21:00
総合事業	訪問型サービス国基準	訪問介護員が居宅に伺い、主に身体介護のホームヘルプサービスの提供 〈実施〉月～日曜日 8:30～17:00
地域生活支援事業	移動支援	平成 18 年 10 月より新設された障がい福祉サービスの一部 ・移動支援 移動に支援を必要とする方を対象とした移動支援サービス。屋外での移動が困難な障がい児(者)に対して、余暇活動や社会生活上必要な外出時の支援及び学校等への送迎を行う
	訪問入浴サービス事業	身体障がい者の方(65 歳未満)・介護保険外の高齢者の方への移動入浴車による入浴介護サービスの提供
受託事業	赤ちゃんホームヘルプサービス	基本的には生後 12 週間以内の赤ちゃんのいる家庭を対象に、日常支援が必要な場合にホームヘルパーを派遣する
	乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問事業)	生後 4 か月未満の乳児のいる家庭に訪問し、育児に関する不安や悩みの聴取・相談、親子の心身の状況や養育環境の把握、子育て支援に関する情報提供を行う
障がい福祉サービス	居宅介護	ホームヘルプサービスと呼ばれているサービスで、自宅で入浴・排泄・食事などの介護を行う
	重度訪問介護	重度の肢体不自由者で、常に介護が必要な障がい者に、自宅で入浴・排泄・食事の介助を行う。外出時の移動を助け、移動中の介護も行う
	行動援護	知的障がいや精神障がいにより行動が困難で常に介護が必要な障がい者に、行動するときの危険を回避する援助や外出時の移動の補助を行う
	同行援護	視覚障がいにより、移動に著しい困難を有する者に、外出時において同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護、排泄・食事等の介護等を行う
制度外	ほっとサポート	①制度上(障害者総合支援法、介護保険等)のホームヘルパー派遣において制限をうける人 ②ホームヘルパーの派遣をうけないと日常生活に支障をきたす人を対象とするサービス。地域の中で安心して暮らせるように、日常生活に必要な介護等の支援を行うことを目的とした大野城市社会福祉協議会独自の事業

令和4年度実績

1 介護サービス状況（介護保険・障害福祉サービス・受託事業・制度外支援）

			合 計 (年度)	前年比
介護保険適用	居宅サービスケアプラン作成(人)		567	88%
	介護予防ケアプラン作成(人)		32	67%
	指定訪問介護(人)		156	80%
	指定介護予防訪問介護(人)		-	0%
	指定訪問入浴(人)		51	78%
	指定予防訪問入浴(人)		-	0%
	件数合計		806	85%
	ヘルパー実働 (時間)	身体介護	339.75	46%
		生活援助	747.86	84%
		予防訪問介護	-	0%
総合事業	入浴スタッフ稼働回数		234	75%
	実施キャンセル		24	89%
	計		1087.61	67%
	総合事業ケアプラン作成(人)		18	150%
	訪問型サービス国基準(人)		90	98%
総合事業	訪問型サービスA(人)		-	0%
	件数合計		108	104%
	ヘルパー実働 (時間)	訪問型(国)	573.25	81%
		訪問型(A)	-	0%
		計	573.25	81%

			合 計	前年比
受託事業	赤ちゃんヘルプ	対象者 延べ人数	267	99%
		時 間	414	97%
		回 数	267	99%
	こんにちは赤ちゃん	対象者数	22	81%
		訪問終了者	22	81%
	サービス利用者計		289	97%

			合 計	前年比
制度外事業	ほっとサポート	対象者 延べ人数	132	92%
		時 間	87	76%
	※制度の対象外支援 1時間 3,500円(生保世帯は1,700円)			

				合 計 (年度)	前年比
障がい者福祉サービス	居宅介護	対象者 (人)	障 害 者	187	85%
			知 的 障 害 者	60	118%
			障 害 児	23	121%
			計	270	93%
		身体介護 (時間)	障 害 者	2501.25	92%
			知 的 障 害 者	545.00	113%
			障 害 児	346.50	140%
			計	3392.75	99%
		家事援助 (時間)	障 害 者	44.50	30%
			知 的 障 害 者	140.00	52%
			障 害 児	－	0%
			計	184.50	44%
		合 計			3577.25
	重度訪問介護	対象者(人)	身体障害者	－	0%
		時 間	身体障害者	－	0%
	行動支援	対象者 (人)	障 害 者	－	0%
			知 的 障 害 者	9	150%
			障 害 児	－	0%
			計	9	150%
		時 間	障 害 者	－	0%
			知 的 障 害 者	90.00	155%
			障 害 児	－	0%
			計	90.00	155%
	同行支援	対象者(人)	視 覚 障 害 者	15	88%
		時 間	視 覚 障 害 者	126.00	98%
	地域生活支援事業	対象者 (人)	障 害 者	19	79%
			知 的 障 害 者	14	140%
			障 害 児	22	81%
			計	55	90%
		移動身体あり (時間)	障 害 者	122.00	72%
			知 的 障 害 者	36.00	120%
			障 害 児	30.50	133%
			計	188.50	85%
移動身体なし (時間)		障 害 者	－	0%	
		知 的 障 害 者	－	0%	
		障 害 児	3.50	10%	
		計	3.50	10%	
合 計			192.00	75%	
入浴事業対象者(人)			24	96%	
障害者(回)			180	114%	
計			79	92%	
	障害福祉対象者計			373	91%

2 介護サービス研修会

令和4年度大野城市社会福祉協議会介護サービス研修報告

	訪問介護	訪問入浴	居宅	合同
4月9日(土) 9:00~11:00 社協3F 大会議室 ○2022年度の事業方針について 講師:馬場事務局長 (担当 福島)	○	○		
5月14日(土) 9:00~11:00 社協2F 多目的室 ○複合した障害理解について(担当 幸)	○	○		
6月11日(土) 9:00~11:00 大会議室 ○感染症及び食中毒の予防及びまん延防止について(訓練)(担当 貝原)	○	○		
7月9日 (土)9:00~11:00 社協3F大会議室 ○接遇について 講師:福岡県レクリエーション協会 上級インストラクター 砥綿 敬二氏(担当 総務・居宅)	○	○	○	○
課題配布・9月7日(水) 提出期限・9月12日(月) ○緊急時の対応について(担当 岩永・福島) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためホームワークへ変更	○	○		
9月20日(火)課題配布・9月30日(金)提出期限 ○身体介護技術(担当 貝原) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためホームワークへ変更	○	○		
10月8日(土) ○地域福祉について 50周年記念式典(担当 貝原)	○	○	○	○
11月26日(土) 9:00~11:00 社協2F多目的室 ○生涯大切な口のはなし(担当 松田) 講師:花田歯科医院 理事長 花田真也 氏	○	○		
12月10日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○高齢者・障がい者の人権研修・利用者のプライバシー保護・倫理観及び法令遵守 相談対応における基礎知識 講師:九州大学ハラスメント対策推進室 神野 文氏(担当総務・ケアマネ)	○	○	○	○
1月21日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○認知症対応について(担当 岩永)	○	○		
2月11日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○虐待について(担当 幸)	○	○		
3月20日(土) 9:00~11:00 社協2F多目的室 ○介護保険・総合支援・児童福祉 各法改正について ○コミュニケーション麻雀をしてみよう (担当 福島)	○	○		

3 実習生受け入れ状況

◇令和4年度 訪問介護実習生受け入れ状況

団 体 名	期 間	人 数
なし	なし	0

◇令和4年度 福岡県介護支援専門員実務者研修

団 体 名	期 間	人 数
なし	なし	0

36. 社会福祉援助技術現場実習受け入れ

法人運営費

将来の福祉従事者を育成する一環として、各学校からの実習生の受け入れを行なっている。実習内容は、社会福祉協議会の事業全般にはじまり、介護サービス(訪問介護、訪問入浴)、コミュニティワーカーの地域福祉活動の現場実習等、様々なカリキュラムを組んでいる。

令和4年度実績

◇実習生受け入れ状況

実 習 期 間	大 学 名	人 数
8月9日～9月15日	大原学園 筑紫女学園大学	2
2月9日～2月20日	筑紫女学園大学	3
2月24日～3月7日	筑紫女学園大学	2

37. 職員の資格（取得）状況

資格等名	社会福祉士	社会福祉主事	社会保険労務士	ボランティアコーディネーションカ	ボランティアコーディネーションカ	社協会計実務通信講座			簿記3級以上	介護支援専門員	主任介護支援専門員	看護師	介護福祉士	介護福祉士実務者研修	介護職員初任者研修	ガイドヘルパー	行動援護	強度行動援護	同行援護	障がい者ヘルパー	精神障がい者ヘルパー	難病ヘルパー	喀痰吸引（第3号）	公認心理師
				2級	3級	上級	中級	入門																
総数	9	6	1	2	6	1	1	1	16	5	2	3	18	0	5	11	7	1	5	2	7	7	2	1

資格等名	認知症キャラバンメイト	バリデーション	障害者相談支援従事者	社会福祉士実習指導者	介護福祉士実習指導者	社会福祉士会 成年後見人養成研修	市民後見人養成研修	福祉住環境コーディネーター	介護クランク事務	医療事務	応急手当普及員	防災士	防火管理者	保育士	幼稚園教諭	調理師	食品衛生責任者	図書館司書	第二種衛生管理者	大型一種運転免許	医療的ケア児コーディネーター	一般旅行業務取扱主任者	職業訓練指導員（自動車科）	二級自動車整備士
総数	6	2	1	4	1	1	1	3	1	3	5	6	4	4	1	4	2	1	2	3	1	1	1	1

延べ総数 172

38. 職員内部研修

法人運営費

◇令和4年度職員内部研修

① 接遇研修

接遇は結果的に良好なコミュニケーションによって相互に心が元気になることを学んだ

開催日	令和4年7月9日(土)9:00~11:00
開催場所	大野城市総合福祉センター
参加者	職員36名
研修内容	講師 福岡県レクリエーション協会 上級インストラクター 砥綿 敬二 先生 ○話上手、聴き上手 ○接遇とホスピタリティ ○マジック・フレーズ、こんなことばでほめられたい ○価値の序列 ○私のホスピタリティ度 ○無財の七施

② 人権研修

開催日	令和4年12月10日(土)9:00~11:00
開催場所	大野城市総合福祉センター
参加者	職員33名
研修内容	講師 九州大学ハラスメント対策推進室研究員 臨床心理士・公認心理士 神野 文 先生 ○精神障害者へのサポート、声掛け、対応について考える ○相談を受けるということ、相談に乗ると言うこと、相談業務についてを考える ○自身のメンタルヘルスについて考える

39. 法人化 50 周年事業



令和 4 年 10 月 4 日に法人化 50 周年を迎えた。これまで支えてくださった多くの方に感謝すべく、令和 4 年 10 月 8 日に式典及びふくしの祭典を実施。「～感謝～ つながり よりそい これからも」を合言葉に、社協の全職員で一丸となり、手作り感満載で社協らしく感謝の思いを伝えることができた。



令和4年度実績

市民のみなさまをはじめ多くの方々にご協力頂いた共同募金運動は、地域の福祉活動費や福祉団体への助成、社会福祉協議会が行なう様々な福祉事業に活かされている。

1 赤い羽根共同募金フォトコンテスト

内 容：みんながそろってしあわせになることは、私たちひとりひとりの願いです。“赤い羽根”をシンボルとする共同募金運動は、そんな“ねがい”を込めて行っています。みんなのあたたかな“たすけあいの心”を広げ、福祉への関心と理解を深めることを目的に実施した。厳正な審査の結果、最優秀賞1作品、優秀賞2作品、佳作3作品が入選となり、10月8日(土)に開催された社協ふくしの祭典において表彰状を授与した。



【最優秀賞】

石川 裕子さん

★作品タイトル「大好きな君」

★作品へのコメント

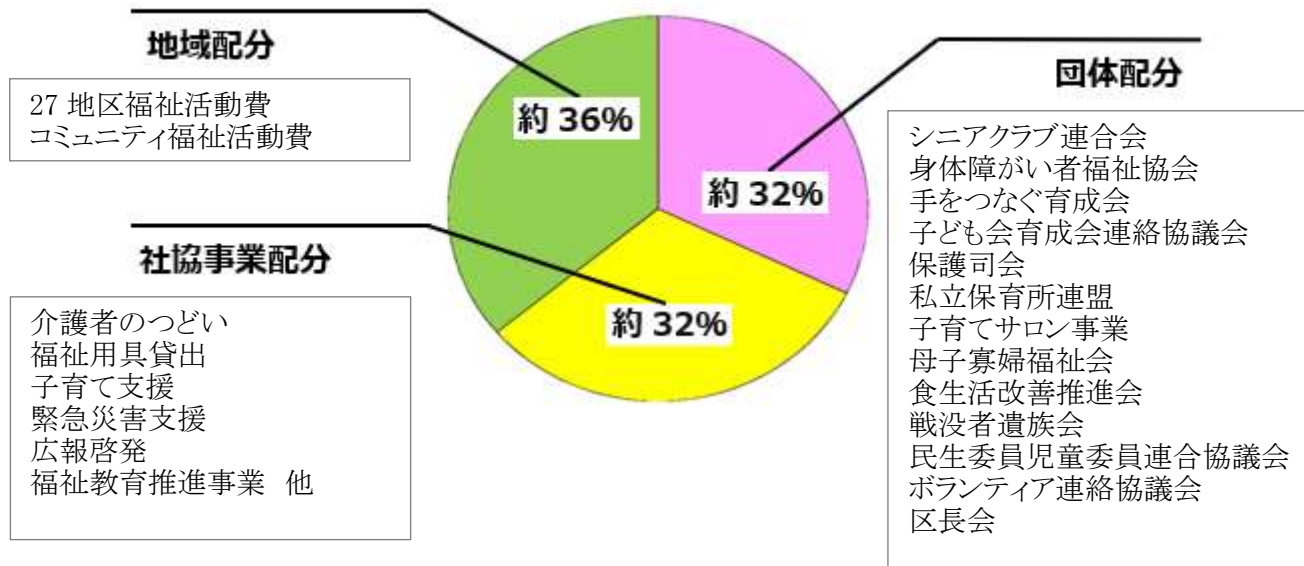
優しい表情で見つめる君に母は「大きくなったなあ」
逞しさを感じます。

2 目安額・実績額

(単位：円)

	令和4年度		令和3年度	
	目 安 額	実 績 額	目 安 額	実 績 額
戸 別 募 金	14,310,000	13,661,556	13,900,000	14,168,349
企 業 募 金	2,169,000	2,283,579	2,300,000	2,147,566
街 頭 募 金	145,000	270,547	100,000	144,495
職域団体募金	531,000	607,311	776,000	526,645
バッジ等募金	606,000	572,702	580,000	600,325
個 人 募 金	409,000	427,230	275,000	405,862
イベント募金	5,000	23,033	1,000	0
自販機売上募金	519,000	702,815	468,000	514,795
募金箱設置協力	242,000	276,631	300,000	240,201
寄付つき商品による募金	10,000	107,807	50,000	10,826
合 計	18,946,000	18,933,211	18,750,000	18,759,064

配分実績



3 寄付つき商品

大野城市内の事業所にご協力いただき、共同募金（寄付）商品の開発を行い推進している。

商 品 : かりんとう
 協力企業 : 有限会社天龍堂製菓(大野城市仲畑)
 募 金 額 : 102,486 円 (5,394 個)

商 品 : クッキー
 協力企業 : ファン工房 ほゝえみ(大野城市若草)
 募 金 額 : 5,321 円 (5,321 個)

4 支会理事会開催状況 (理事総数 16名)

開催年月日			議 題		出席者
令和4年	7月12日	第1回	第1号議案	令和3年度福岡県共同募金会大野城市支会事業報告について	11名
			第2号議案	令和3年度福岡県共同募金会大野城市支会資金収支決算書について	

5 支会運営委員会開催状況 (運営委員総数 10名)

開催年月日			議 事	出席者
令和4年	8月1日	第1回	福岡県共同募金会大野城市支会運営委員会会長の選任について	9名
			福岡県共同募金会大野城市支会運営委員会副会長の選任について	
令和5年	1月26日	第2回	福岡県共同募金会大野城市支会運営委員会会長の選任について	8名

	3 月 27 日	第 3 回	令和 5 年度福岡県共同募金会大野城市支会事業計画書(案)について 令和 5 年度福岡県共同募金会大野城市支会資金収支予算書(案)について	10 名
--	----------	-------	--	------

6 被災地支援義援金

市民の皆さまからお預かりした多額の義援金は、被災地に設置された義援金配分委員会を通じて被災者へ分配される予定である。

令和4年8月3日からの大雨災害義援金	5,612 円
令和4年台風第15号災害静岡県義援金	2,959 円

令和4(2022)年度事業計画

★基本方針★

昨年は、世界中で蔓延したコロナウイルスにより、計画していた事業が中止になったり、地域においても、従来の地域福祉活動を余儀なく縮小したり、内容を変更して行うなどこれまでなかった取組みが行われていました。学校への福祉教育も、学校に直接伺わず、オンラインによる授業を行ったり、職員の研修や会議もオンラインで行われました。本年もしくは「ウィズコロナ」で事業を進めていくことが予想されますが、社会福祉協議会は業務を止めることなく、職員一人一人がエッセンシャルワーカーとしての自覚を持って、業務遂行していきます。

社会福祉法の改正により創設された重層的支援体制整備事業が進められる中、市民から寄せられる様々な相談や困りごとに、まずはすべて受け止め、その解決に向けて行政や他の専門機関など関係部署とも連携し、対応していきます。

さらに、本年は社会福祉協議会法人化50周年の節目の年でもあり、これまでたくさんの方々に支えられ、ご協力頂いてきたことへの“感謝”の気持ちを、10月に企画している記念イベントを中心に、市民の方々に伝えしていきます。

また、社会福祉協議会が取り組んでいる事業や、これから社会福祉協議会が担っていくこと等も広く周知していく必要があり、TwitterやFacebook等のSNSを活用した情報発信をはじめ、公式LINE登録者を増やし、幅広い世代に社会福祉協議会のことをもっと知っていただけるよう、広報啓発を行っていきます。

◆重点方針◆

- 1) 社会福祉協議会法人化50周年記念事業の実施・・・昨年にプロジェクトチームを結成し、10月に行う記念イベントに向けてプロジェクトリーダーを先頭に取り組む
- 2) 福祉の専門職を担う職員の育成・・・職員を「総合職」と「一般職」に新たに位置づけし、さらに従来の「介護職」と連携しながら、福祉の専門職に従事する一員としての責務と、個々のスキルアップを図る
- 3) 「支援する人を支援する」・「助ける人を助ける」・・・さまざまな支援・地域福祉に尽力する皆さんを社会で支援する・助ける仕組みを試行する。
- 4) 第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画の遂行・・・今年2年目となる計画は、重点事業の中には、昨年アンケート調査を行ったものや、新たに取り組み始めたものもあり、分析作業や事業の見直しなどを市福祉課や関係部署と連携して進める
- 5) 東北応援の旅・・・コロナ禍で開催できなかった東北応援の旅は、「東北応援N基金」を活用し、感染状況を十分配慮したうえで実施に向けて準備を進める
- 6) 情報発信の拡充・・・社協がどんな業務を行っているか、こんな相談を聞いてもらえるのか等まだ知られていないところもあり、SNSやホームページ、社協だより(ふくしんぼ)等を活用し、幅広い世代の方に社協を知ってもらえるよう、情報発信を常に行う

◆重点事業◆

以下☆マーク…第3期市民活動推進計画

◇総務企画課◇

《健全な法人運営》

- ・収入と支出をあわせた財政の管理をおこなう。
- ・法令の学習と法令を遵守した法人運営をおこなう。

《感染対策の徹底》

職員、施設内のコロナウイルス感染防止対策の徹底と、業務の簡便化を図る

《業務の効率化》

- ・システムの効率的な活用と機器ネットワークの安全性を図るための整備をおこなう。
- ・リモートによる講座や研修会に対応した設備の整理をおこなう。
- ・事務局車両を安全に利用するため車両整備をおこなう。

《総合福祉センター利活用》

・総合福祉センターの老朽化に対応した修繕をおこないながら、市民が安心して使用できる施設を目指し、適切な管理と運営を実施する。

《指定寄附の執行》

- ・指定寄附…「東北応援N基金」での東北応援事業実施を支援する。
「困った☺」を助ける人を助ける指定寄附の仕組みにチャレンジする。

◇地 域 課◇

《市民ニーズの調査研究》

- ・地域福祉に関わる会合や地域ケア会議では、年々見守りが必要な方が増加する一方、地域内の人間関係の希薄化、活動への担い手不足の声が挙がっている。そのため地域課題（地域の住民同士のつながりや見守りへの理解協力）や、これまで行われてきた地域福祉活動の意義の再確認や、エリアや対象の見直し、孤立防止・生きがいづくり・近隣の人間関係の構築をはじめとする、ニーズと課題の解決に合わせた活動を行う根拠となるよう、アンケート調査によって活動者側・参加対象者側から声を集め、対策を協議していく。
- ・地域ケア会議や生活支援体制整備事業など見守りの重層化を思案する。

《広報事業の拡充“社協を知ってもらう”》

- ・公式LINEやYouTube、Twitter等の、事業や活動への効果的な活用を目指す。
- ・社協日より「ふくしんぼ」の紙面改良を行っていく。

【第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画】

☆《身近な地域のイベントやサロン活動のあり方を考える調査研究》

昭和57年から続く「番茶の会」について、コミュニティ運営協議会（主催）と市すこやか長寿課とともに、番茶の会の主催者側・対象者側に行ったアンケート調査を集計し、今求められているニーズや今後の地域福祉活動対策を実施・協力団体・関係機関とともに協議していく。

☆《未来へつながるボランティア活動》

持続可能なボランティアセンター構築のため、令和3年度に学生により結成されたYFH（Young Free Helper）のメンバーが、主体的に話し合いや活動できるよう支援していく。

☆《働き盛り世代の介護者を支える新たな地域福祉活動の取組み》

令和3年度に介護専門機関・事業所に協力を頂いたアンケートを分析し、安心して仕事と介護の両立ができるよう、働き盛り世代の実情・ニーズを事業所に伺いながら、介護講座のメニューを作り、講座の実施を進めていく

☆《マンションと連携した地域づくり》

住民をはじめ、マンション管理組合や管理会社に対して、様々な地域活動への理解促進を図り、社会的孤立を起因とする諸問題の予防や早期発見、解決に向けた取組みを推進する。

◇権利擁護課◇

《生活福祉資金事業》

引き続き新型コロナウイルス感染症に関する支援情報等について情報収集し、社協のホームページ等を活用し広報周知を行う。

☆《日常生活自立支援事業・法人後見事業》

市役所と機能分担及び協働しながら、中核機関としてパンフレットの作成や研修会の開催等の広報機能および相談機能を中心に取り組む

☆《死後事務事業》

日常生活自立支援事業の利用者の中で、生活保護を受給されており、亡くなられた後の支払いを手伝ってくれる親族等がない方と契約を交わし、死後事務を行う

◇介護サービス◇

☆《働き盛り世代の介護者支援》

関係機関へ行ったアンケート結果に基づいた課題に、専門職の立場で協力する。

《地域福祉との連携》

多様な地域課題に対し、専門職としての知識をもって協力する。

《感染症対策》

感染症に関する最新情報をわかりやすく利用者へ発信する。

《居宅介護支援事業》

変わりゆく社会の中で、制度のみにとらわれることなく利用者の安全な在宅生活を支えるためのケアマネジメントを行う。

《居宅介護サービス事業》

- ・人材確保を行う。
- ・利用者への支援において、「代行」ではなく「エンパワメント」の強化を行う。